

岐阜大学応用生物科学部
学生の確保の見通し等を記載した書類

国立大学法人
東海国立大学機構

令和 6 年 7 月

目次

(1) 再編組織の概要

- ① 再編組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）
- ② 再編組織の特色

(2) 人材需要の社会的な動向等

- ① 再編組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析
- ② 中長期的な 18 歳人口の全国的，地域的傾向の分析
- ③ 再編組織の主な学生募集地域
- ④ 既設組織の定員充足状況

(3) 学生確保の見通し

- ① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
- ② 競合校の状況分析
- ③ 学生確保に関するアンケート調査
- ④ 人材需要に関するアンケート調査

(4) 新設組織の定員設定の理由

(1) 再編組織の概要

① 再編組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

岐阜大学応用生物科学部は、それまでに培ってきた農学に加えて食品，医薬品，環境関連産業などの生物産業で活躍できる人材を育成する学部として 2004 年に食品生命科学課程，生産環境科学課程及び獣医学課程の教育組織を設置した。その後，実質的な教育内容の提供や全国的な獣医学の改革等の変遷を経て，現在の応用生命科学課程（2 コース），生産環境科学課程（3 コース），共同獣医学科の 2 課程 5 コース 1 学科体制を築いている。本学部では生物・生命科学の成果を活用し，人類の持続的生存と生活環境の向上に貢献する理念の下，安心・安全な食の安定供給，環境と調和した食料生産，環境の修復と保全，高機能性食品の開発と健康の増進，公衆衛生の向上という 5 つの目標を理念に掲げて教育研究を実施している。しかし，高等教育の発展と少子化の進行に伴い，社会や地域のニーズ及び技術革新は大きく変化している。これらの次世代社会ニーズに応えるため，生命・食・環境をもとに専門性を再構築・組織化し，課題解決に必要な専門性の涵養に加え，課題解決型教育を強化することにより実践力のある人材を輩出するため，これまでの 2 課程を生命・食・環境を柱とする 3 学科（応用生命化学科，食農生命科学科，生物圏環境学科）に再編し，共同獣医学科を加えて 4 学科体制とする。

岐阜大学応用生物科学部の再編する 3 学科（応用生命化学科，食農生命科学科，生物圏環境学科）の概要表

再編組織	入学 定員	3 年次 編入学 定員	収容 定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
応用生命化学科	55	3	226	岐阜県岐阜市柳戸 1 - 1
食農生命科学科	55	4	228	岐阜県岐阜市柳戸 1 - 1
生物圏環境学科	50	3	206	岐阜県岐阜市柳戸 1 - 1

② 再編組織の特色

再編した応用生物科学部では，低学年から積み上げ型専門教育が可能な新たな教育プログラムを実践し，学際的・総合的視点に立った理論的・専門的かつ実践的な研究と教育を行うことによって，次世代社会ニーズの潮流，学術研究の著しい進展，そして社会・経済の変化に対応できる，柔軟で高度の総合的な判断力を備えた，国際的にも通用する高度専門職業人材の育成を目的とする。

（２）人材需要の社会的な動向等

① 再編組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

文部科学省が毎年行っている学校基本調査にて全国的な傾向を見ると、2022 年度入学志願者 4,351,965 人に対して農学系学部志願者 115,545 人と全体の 2.66%となっており、同データで最も古い公表年度である 2015 年度入学志願者 3,983,778 人、農学系学部志願者 128,875 人、3.23%と比較すると大きく後退していることがわかる。国立大学の入学志願者に限って比較しても農学系学部志願者は 2015 年度 8.17%であったのに対して 2022 年度では 6.41%と大きく後退している。

一方、農学系学部の入学者は、2013 年入学者について大学入学者の全体の 2.8%で、その後 2018 年まで同率を維持し、2019 年以降は 2.9%となっている。

その間、学科構成は、いわゆる農学 7 分野（農芸化学、生産農学、畜産学・獣医学、水産学、森林学・林産学、農業経済学、農業工学）に対応していた学科が、改組によって環境科学、経営・経済、生命科学等と融合した学科が増加する傾向にあり、そうした新学科定員は 2013 年度の 7949 人から 2022 年度の 9171 人へ、10 年間で約 15%増加している。

本学部の入学者の内、約 8.7%の入学者の出身地である近畿地方（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）に所在する私立大学 3 校（龍谷大学、立命館大学、摂南大学）が 2015 年から 2020 年にかけて相次いで農学系学部を新設しているが、いずれも従来の農学系分野に経営学を加えた文理融合型の学部である。

農学系学科卒業者の進路について産業別にまとめた結果（2000（平成 12）年度と 2022（令和 4）年度）を添付資料 1 に示す。23 年間で 1 次産業の割合は変わらないが、製造業を中心とする 2 次産業が減り、3 次産業が 61%から 72%に増加している。中でも増加が著しい産業は、情報通信業、公務、その他である。このことは、農林水産分野だけでなく、食農科学、生命科学、環境・生態系保全等の分野を修めた高度専門職業人材が、1 次、2 次産業だけでなく、3 次産業をはじめ、様々な産業で求められるようになってきたことを示すものである。

新 3 学科の前身である学科（2000（平成 12）年度）・課程（2022（令和 4）年度）の学部卒業者の進路について、産業別にまとめた結果を添付資料 2 に示す。23 年間で 1 次産業への就職者の割合は 0.4 ポイント減であるものの、ほとんど変化がなく、さらに製造業を中心とする 2 次産業が減り、3 次産業が 48.6%から 63.4%に増加しており、前述した全国の変化の傾向と同様である。中でも全国の結果と比較して増加が著しいのは公務である。一方、大学院への進学者は、23 年間で進学者は 1.9 倍（全卒業生の過半数）に増えている（添付資料 2）。進学者を含めた場合、公務の割合は 12.4%（2022 年度）であり、公務員を志望する学生のほとんどが進学しないことを考えると、全国で示した公務の割合とほぼ同じと言える。

以上のように、農学系学部出身人材が従来の 1 次、2 次産業だけでなく、3 次産業にまで需要があることが最近の傾向であり、本学部はそれに応えることができる高度専門職業人

材を輩出する社会的役割を担っているものと考ええる。

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

全国の 18 歳人口は 2025 年に約 110 万人となり、その後 5 年間は微減し、改組 5 年目の 2029 年には 108 万人となる。その後、減少率が大きくなり、改組 10 年目の 2034 年には 100 万人となり、改組年から約 9%の減少率となることが予測されている。さらに改組 15 年目の 2039 年には 86 万人となり、改組年からは約 22%の減少率となることが予測されている（添付資料 3）。

東海 3 県（岐阜県、愛知県、三重県）の 18 歳人口の減少率は、改組元年（2025 年）を基準とすると、改組 10 年目の 2034 年には、岐阜県で約 14%、愛知県で約 6%、三重県で約 13%となることが予測されている（文部科学省「学校基本調査」より）。

全国の大学進学率は、2022 年度は 56.6%であり、1990 年度の 24%から一貫して増加している[†]。本学部 2 課程の入学者の約 50%の出身地である愛知県の進学率は 2022 年度で 58.5%、入学者の約 25%の出身地である岐阜県の進学率は 2022 年度で 53.3%、残る約 25%の入学者の出身地は三重県と近畿地方が多く、三重県と近畿地方の進学率は 2022 年度でそれぞれ 48.6%、61.6%である[†]。また、愛知県、岐阜県、三重県、近畿地方の進学率は、全国の動向と同様に増加傾向にあり、直近 10 年間でそれぞれ、5.9、5.6、4.0、8.4 ポイント増加している[†]。

全国の地元残留率は、2022 年度は 44.8%であり、2013 年の 10 年間で 1.4 ポイント増加しているもののほぼ横ばいと言える[†]。本学部 2 課程の入学者の約 50%の出身地である愛知県の地元残留率は 2022 年度で 86.1%、入学者の約 25%の出身地である岐阜県の地元残留率は 2022 年度で 73.3%、残る約 25%の入学者の出身地の内、三重県と近畿地方の地元残留率は 2022 年度でそれぞれ 67.6%、47.3%であり、本学部 2 課程全体的には、全国の地元残留率よりも高い。東海 3 県の岐阜県、愛知県及び三重県の地元残留率は直近 10 年間で、それぞれ 0.5 ポイント減、3 ポイント減、14.9 ポイント増となっている[†]。

2025 年から新 3 学科が定員 160 名で新体制がスタートし、その 10 年後の 2034 年度の志願倍率について検討した。過去のデータより志願倍率 2.2 倍とし、受験者の出身地の構成が愛知県 46%、岐阜県 24%、三重県、静岡県及び近畿地方を含むその他の地域 30%として、各地域の 18 歳人口の減少率（岐阜県 14%、愛知県 6%、三重県、静岡県及び近畿地方の平均値 11%をその他とする）を考慮して計算すると、2034 年度の志願倍率は約 2.0 倍となる。これまでの 10 年間のデータから進学率の増加傾向は続くものと考えられ、これは志願倍率の減少を抑制する方向に作用する。一方、地元残留率は愛知県が 3 ポイント減となっているが、もともと愛知県の地元残留率は 86.1%と全国平均の 44.8%と比較すると極めて地元志向が強い。また、複数の大手進学予備校が公表している入試ランキングによると、東海地方 4 県の国立大学農学系学部の中では、岐阜大学応用生物科学部 2 課程（応用生命科学課程と生産環境科学課程）は名古屋大学に次いで 2 位であることを考慮すると、愛知県の 3 ポイ

ント減には岐阜大学への移行分も期待できるため、愛知県の地元残留率の減少が志願倍率減に大きく影響することはないと考えられる。

基本的に 2 課程が守備する教育研究分野をすべて包含する新 3 学科体制は受験生にとって理解を得やすく、新学科をよく知ってもらうための広報活動等（後述）により、これまでと同等程度以上の志願者を集め、学生の充足が可能であると考ええる。

† 数値は文部科学省「学校基本調査」より算出

③ 再編組織の主な学生募集地域

本学部 2 課程の入学者の出身県別の割合を添付資料 4 に示す。出身者が最も多い県は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の順に東海 4 県が並ぶ。2019（令和元）年度から 2023（令和 5）年度の 5 年間の入学生全体に対する割合は、それぞれ 46%、24%、2.8%、2.2%であるが、愛知県と岐阜県で 7 割を占める。静岡県に次いで多いのは大阪府、滋賀県、京都府、福井県、兵庫県と続く。三重県、静岡県及び近畿地方を合わせると 12%であり、東海 4 県に近畿地方を合わせると 8 割以上を占める。

愛知県を西部の尾張地域と東部の三河地域に分けると（添付資料 5）、尾張地域出身の方が三河地域出身者よりも多い。このことは出身が愛知県でも、岐阜に近く、自宅からの通学することができる東部から流入しているということを意味している。尾張地域と岐阜県を合わせると入学者全体の過半数である 60%となる。

一方就職先は、添付資料 6 に示す通り 6 割以上が東海 4 県、中でも愛知、岐阜が多く、入学者の出身県の割合と（2）②で述べた地元残留率の動向と一致する。本学部入学生は、進学先も卒業後の就職先も地元であることを重要視することが特徴とすることができる。

以上のことから、主として愛知県と岐阜県を主たる募集地域として広報活動や高大連携活動に力を入れるべき地域に設定すべきと考える。

④ 既設組織の定員充足の状況

既設組織の本学部応用生命科学課程と生産環境科学課程の志願者状況及び入学定員充足割合の充足状況（直近 5 年間）を添付資料 7 に示す。既設組織である 2 課程はすべて 3 つの新学科組織に改組される。

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組

本学部には広報推進室が設置されており、各種の広報活動を展開している。広報推進室は広報担当副学部長が室長を務め、各課程・学科の委員（各2名）、ホームページ担当委員（1名）及び入学試験委員会副委員長（1名）からなり、定例の広報推進室会議を月1回開催している（添付資料8）。活動内容として、①広報活動の実働部隊となる「広報支援隊」の選出、②高校への出前講義の設定、③学部紹介パンフレットの企画・作成、④各種受験関連資料の高校への配布、⑤オープンキャンパスの企画決定、並びに実施、⑥大学を訪問した高校生に対する説明会・施設見学の実施計画策定、⑦合同入試説明会への参加、⑧学部ホームページの管理、情報更新、⑨教員及び学生に関連した新聞報道、研究活動における受賞等の情報発信、⑩中学生・高校生を対象とした体験科学講座の企画・実施、等を所掌している。これらの活動を随時実施しており、学部の各課程・学科の広報活動に務めている。なお、出前講義の講師及び学部の説明者を務める「広報支援隊」は、高校生に対してわかりやすく説明する能力が求められるため、学部で担当している講義に対する学生の授業評価ポイントが上位の教員を選出し、広報支援隊への協力を依頼している。以下に、主な広報活動の具体的実績を示す。

A. オープンキャンパスの開催

例年8月の第2週に全学でオープンキャンパスを開催しており、多くの高校生及びその保護者が参加している。2020年度から2022年度まではコロナ禍により対面での実施を中止、あるいは完全予約制による人数制限を設けての開催であったが、2023年度は人数制限を設けない完全対面式での実施とした。2023年度は8月9日・10日の二日間で開催し、高校生及び保護者など1,883名の参加者があった（添付資料9）。参加者の出身都道府県では、愛知県及び岐阜県がそれぞれ全体の33.2%及び32.5%であり、次いで静岡県の4.7%、三重県の4.5%、大阪府の3.2%であった。

2023（令和5）年度の参加者によるアンケート調査では、参加者の96.5%が企画に満足であったと回答しており、非常に好評であった（添付資料9）。また、オープンキャンパスの参加により本学部への志望度が向上したかという設問に対しては、61.5%が向上したと回答しており、逆に低下したという回答は0%であった（添付資料9）。このことからオープンキャンパスを開催する意義は非常に高く、受験生に対する広報活動として引き続き重点的な対応を取る予定である。

B. 出前講義、大学説明会、入試説明会の実施

本学部では高校からの依頼に応じて出前講義を実施している。出前講義は、「広報支援隊」の各教員が提示した出前講義リストの中から高校側が選択し、その依頼に応じて講師を派遣している。過去5年間の実績では、愛知県及び岐阜県下の高校を中心に毎年20件前後を

開催している。出前講義の際には、学部案内も併せて行っている。

高校からの依頼による大学見学も実施しており、学部の説明会と併せて各附属施設の見学を実施している。2023 年度は愛知県及び岐阜県下の高校を中心に 13 件を実施している。この大学見学では、本学部に興味を持っている学生が集まるため、施設見学の折にも積極的な質問がなされ、関心の高さがうかがえる。

毎年 6 月には名古屋市内で開催される「国立 12 大学東海地区主要大学合同進学説明会」及び岐阜市内で開催される「岐阜新聞主催高校生のための進学ガイダンス」にて入試説明会に参加しており、例年応用生物科学部のブースには開始とともに学生が詰めかけ、終了するまで順番待ちをする学生が途切れることはない。これらの入試相談では、本学部を有力な進学先として考えている学生が集まるため、一人当たりかなりの時間を割いて入試に関する事項だけでなく、学生生活全般に関わる説明の機会を設けている。

C. Web サイトを活用した広報活動

本学部では 2022 年度に学部のホームページを全面的にリニューアルし、特に高校生の目線に立ったホームページ構成を心がけてデザインやレイアウトを刷新した（URL：<https://www.abios.gifu-u.ac.jp/>）。特に高校生を対象とした入試情報を含むコンテンツはトップページの上段に見やすい形で配置し、必要な情報にすぐにアクセスできるようにした。また、高校生が気軽に情報へアクセスできるよう、PC だけでなくスマートフォン等の携帯端末専用ホームページを作成し、効率的に情報を取得できるようなコンテンツレイアウトを採用している。

ホームページのトップページには、教員及び学生の新聞報道、学会からの受賞、講演会開催、テレビ出演等に関する情報を「News & Topics」として掲載し、随時情報の更新を行っている。また、各課程・学科の紹介とともに教員の研究内容を紹介する動画も多数掲載している。研究内容の動画は高校生向けに作成されたものであり、定期的にコンテンツを追加している。

D. その他

各高校には、受験案内及び学部紹介のパンフレットを毎年送付して広報活動に努めている。送付する高校は本学部への受験生が非常に多い愛知県及び岐阜県はもとより、本学部を受験した学生がいる高校はすべて送付対象リストに入れており、今年度は全国 451 の高校に送付している。各高校の受験生人数は毎年調査しており、新たに本学を受験した生徒が在籍していた高校は送付対象リストに加えている。

本学部では、早くから理系に興味を持ってもらうために、中学生を対象とした「中学生のための体験科学講座」を実施しており、毎年定員を満了す 20 名前後が参加している。この講座では、各課程・学科から講師を派遣し、中学生が興味を持ちそうな研究テーマを取り上げて実際に実験を経験する内容を実施している。終了後のアンケートの結果では、ほぼ 100% の学生から内容に興味をわき、また満足であったとの回答を得ている。科学講座は中学生対象のものだけでなく、高校生を対象にした高大接続のための体験企画も実施してい

る。これらの企画は本学部に興味を持ってもらうために重要な機会となっている。

イ 新設組織における取組

上述したこれまでの広報活動については新設組織においても引き続き実施し、学生の確保に努めるとともに、下記に示す取り組みを新たに計画している。

A. 学部紹介パンフレットの新規作成

令和6年度には、改組後の新学科における特色、入試制度、教育内容、研究内容等を紹介する学部案内パンフレットの新規作成を予定している。パンフレットが完成次第、全国の高校への配布を予定している。パンフレットについては、新学科の特色・特徴及び何が変わるのかを1枚に収めたものと、従来の学部紹介パンフレットを踏襲した冊子体を作成予定である。

B. 学部紹介映像の新規作成

新学科の特色、教育・研究内容等を紹介する比較的短時間（3～5分程度）の学部紹介映像を新規に作成する。この映像は学部ホームページのトップページに配置するとともに、出前講義や入試説明会等の際に教員が適宜紹介する。映像によるインパクトは最も印象に残るため、映像プロフェッショナルの意見も参考にしつつ魅力ある映像の作成を目指す。

C. 愛知県及び岐阜県下の高校訪問及び東海地区の予備校訪問による新学科広報活動

学部案内パンフレットが完成次第、高校を訪問し、入試制度、教育内容及び卒業後の進路に焦点を当てて進路担当教員及び学生への説明会を実施する。本学部への入学者は愛知県及び岐阜県出身者が約7～8割を占めるため、訪問する高校も愛知県及び岐阜県下の高校を中心に設定するが、近隣県である三重県及び静岡県下の高校についても、これまでの受験実績に基づいて訪問する高校を設定し、説明会の実施を予定している。

説明会の実施は上述した広報推進室「広報支援隊」が担当するが、本学部と同高校出身の在学生在が在籍している場合には在學生にも同行を依頼し、大学での実生活やキャリア形成に関する相談にも対応できるようにする。「学校基本調査（文部科学省）」によれば、東海地区における女性の進学率は増加しており、また、大学卒業後地元に残る女性の割合も50%前後と高いことから、愛知県及び岐阜県下の高校説明会では、実際に地元で就職を予定している女性在学生を同行し、地元での就職実績をアピールする予定である。さらに、名古屋市及び岐阜市にある大手予備校においても説明会の実施を計画している。

D. オープンキャンパスにおける新企画の実施

令和6年8月に開催するオープンキャンパスでは、新学科設置に関する特設ブースを設け、受験生への説明、入試・教育制度等への質問受付等を実施する。これにより、受験生、保護者、高校教諭等に改組後の入試・教育内容を直接伝える機会を持つことができ、大きな広報効果が期待できる。また、新学科の紹介及び入試相談に重点を置いた「秋のミニオープンキャンパス」を同年10月に実施する予定である。

E. ホームページの刷新及びホームページ専任スタッフの設置

オープンキャンパスの開催に合わせて現行のホームページに新学科の特設ページを開設するとともに、令和 7 年 4 月より学部ホームページの内容を刷新する。リニューアルしたホームページでは、現行のホームページの内容を踏襲しつつ、新学科の特色並びに教育内容を分かりやすく提示する。また、教員の研究内容をキーワードにより検索できるようにし、学部でどのような研究が進められているのか、高校生が直ちに必要とする情報に接することができるシステムを構築する予定である。

ホームページによる情報発信については、これまで以上に高校生にタイムリーな情報発信を行うためにホームページ専任スタッフ（広報スペシャリスト）の配置を予定している。これによりホームページによる情報発信はより一層効果的なものになる。

F. SNS によるタイムリーな情報発信

「X（旧 Twitter）」及び「Instagram」は高校生及び保護者に最も身近な SNS として利用されており、情報を画像や映像として伝える即時性及び情報の拡散性については最も効果的なシステムである。情報の発信については、時に誤った情報の発信や拡散、あるいは品位を損なうような情報発信が問題となるケースがある。このような点には十分配慮しつつ、改組後の情報発信については SNS を積極的に利用し、適切な情報を適切な時期に発信をする体制づくりを計画している。このような情報発信には、上述した「広報スペシャリスト」が情報発信を担当する予定である。

G. その他

広報戦略の一環として、全国の高校において進路指導ツールとして利用実績のある「夢ナビ」に、大学紹介や研究紹介を掲載する予定である。

以上のような広報活動を展開することにより、従来以上の広報成果が見込まれ、志願者の確保が達成できると考えている。

② 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校の選定については、学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層の観点から行うことから、本学部において新設する 3 学科（応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科）の入学定員規模（160 人）と同程度であり、名古屋大学農学部入学者に次ぐ学力層を想定する近隣の国立大学として、静岡大学農学部（入学定員 175 人）、信州大学農学部（入学定員 170 名）及び繊維学部応用生物科学科（入学定員 50 人）、さらに中部圏最大の受験人口を有する愛知県出身者の割合が高く地理的特徴が類似している三重大学生物資源学部（入学定員 260 人）を競合校として取り上げる。各競合校の立地条件、入学試験出願者の県別割合、教育内容等は以下の通りである。なお、競合校の入試時期や学生納付金、就職支援状況、取得可能な資格については本学部と大きな差はない。

A. 三重大学 生物資源学部

＜立地条件＞

キャンパスは三重県津市に立地し、最寄り駅である近鉄江戸橋駅から徒歩 15 分程度、三重県津市の主要駅である津駅からはバスで 15 分程度の距離に位置する。

＜愛知県からのアクセス＞

名古屋駅より特急や急行等で 65～75 分程度要する。

＜教育内容における本学部との相違点＞

三重大学生物資源学部は、令和 6 年度以降改組によって 1 学科 4 コース制となり、学部 2 年次以降は農林環境科学コース、海洋生物資源学コース、生命化学コースの 3 コースに分かれる。農林環境科学コースは、農学・森林科学・農業工学の 3 つの専修からなり、本学部の生産農学と食科学に特化した食農生命科学科と農業工学と生物多様性に特化した生物圏環境学科における学科ごとの専門教育とは大きく異なった教育体制となる。生命化学コースは本学部応用生命化学科と比較的類似しているが、2 年次から生命機能化学専修と海洋生命化学専修とに分かれて教育を受ける構成となっており、本学部応用生命化学科のバイオと化学に特化した教育内容とは差別化できる。

B. 静岡大学 農学部

＜立地条件＞

農学部がある静岡キャンパスは、静岡県静岡市に立地し、最寄り駅である静岡駅からバスで 25 分程度の距離に位置する。

＜愛知県からのアクセス＞

愛知県からは通学圏内ではない。名古屋駅から静岡駅までは、新幹線で約 1 時間要する。

＜教育内容における本学部との相違点＞

静岡大学農学部生物資源科学科は農林産業及び環境保全の人材育成を目指し、2 年次後期からバイオサイエンスコースと環境サイエンスコースに分かれて教育を行っている。本学部においては、食農生命科学科と生物圏環境学科の 2 学科に分かれて 1 年時より学科ごとの専門的教育を行う点で大きく相違がある。また、静岡大学応用生命科学科では食品分野を含めた教育内容となっており、本学部に新設される応用生命化学科のバイオと化学に特化した教育内容とは相違がある。

C. 信州大学 農学部

＜立地条件＞

1 年次は松本キャンパスで講義を受け、2 年次以降は伊奈キャンパスをメインキャンパスとする。伊奈キャンパスは、長野県上伊那郡南箕輪村に立地し、最寄り駅である伊那市駅よりバスで 20 分程度の距離に位置する。

＜愛知県からのアクセス＞

愛知県からは通学圏内ではない。名古屋駅から伊那市駅までは、特急等を利用して 3 時間 30 分程度、高速バスで 3 時間程度要する。

＜教育内容における本学部との相違点＞

信州大学農学部農学は1学科4コース制をとる。生命機能科学コースは食品分野を含めたバイオ系の教育内容をもち、本学部の新設される応用生命化学科のバイオと化学に特化した教育内容とは相違がある。動物資源生命科学コースや植物資源科学コースはそれぞれ家畜生産や作物生産系の教育内容となっており本学部の新設される食農生命科学科の教育内容と一部類似しているが、本学部食農生命科学科では農業生産や家畜生産だけでなく食品流通加工・機能性といった食科学までを一貫して学ぶことを特徴としている点で大きく差別化できる。また、森林・環境共生学コースは本学部生物圏環境学科と類似点もあるが、信州大学は山岳地域における教育内容に特徴があり、本学部生物圏環境学科では水・物質循環を含めた生態系や動物の生息域内・域外保全（動物園動物学）といった教育内容に特徴があり、差別化できている。

D. 信州大学 繊維学部 応用生物科学科

<立地条件>

1年次は松本キャンパスで講義を受け、2年次以降は上田キャンパスをメインキャンパスとする。上田キャンパスは、長野県上田市に立地し、最寄り駅である上田駅より徒歩で20分程度の距離に位置する。

<愛知県からのアクセス>

愛知県からは通学圏内ではない。名古屋駅から上田駅までは、特急等を利用して3時間30分程度要する。

<教育内容における本学部との相違点>

信州大学繊維学部応用生物科学科は、「バイオサイエンス」領域と「フィールドサイエンス」領域を有する。本学部の新設する応用生命化学科は、信州大学繊維学部応用生物科学科と一部類似した教育内容をもつが、バイオと化学に特化した専門科目を多く有している点で相違がある。

本学部改組によって新設される3学科は以下の点で競合校と比較して優位性が認められる。応用生命化学科は、文部科学大臣認定共同利用・共同研究拠点「糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点」や文部科学省大規模学術フロンティア促進事業「ヒューマングライコームプロジェクト」を推進する糖鎖生命コア研究所と教育・研究両面で連携し、バイオと化学に特化したカリキュラムを有する。食農生命科学科は、食科学と生産農学を融合させ作物・家畜生産から食品の加工・流通・機能性までを一貫して学ぶ新しいカリキュラムを有する。生物圏環境学科は、動物園動物や野生動物の生息域内・域外保全及び生態系サービス（生態系が持つ機能）の利活用に関するカリキュラムに特徴を持つ。これらは、競合大学にはない教育内容となっており、学生確保において優位性が認められる。

リクルート進学総研マーケットリポート2022によると、愛知県から他県等の大学への流出状況は、1位が東京都、2位が岐阜県、3位が京都府となっており、中部地域最大の受験人口を持つ愛知県から岐阜県への流出が多いことが示される。また、地理的にも名古屋駅か

ら岐阜駅まで在来線又は私鉄で 30 分未満となっており利便性も高い点に特徴があり、競合校と比較して学生確保における優位性が高いと言える。

またリクルート進学総研マーケットリポート 2022 によると、岐阜県の特徴として、大学進学における地元残留率が 2022 年 21.7%と 10 年前の 18.4%と比較した場合東海地方で最も大きな増加傾向にあり、岐阜県内の入学志願者を獲得する優位なデータを示している。

イ 競合校の入学志願動向

三重大学全学部における入学試験出願者の県別割合は、三重県が約 35%、愛知県が 30-35%程度、岐阜県が 3-4%、中部 5 県（岐阜県、愛知県、三重県、静岡県及び長野県）以外が 25%程度を占めている。また、三重大学生物資源学部の 2021～2023 年度入試の前期日程試験志願倍率は 1.6～4.5 倍となっており、学科ごとの定員充足率はすべて 100%を満たしている（添付資料 10）。

静岡大学全学部における入学試験出願者の県別割合は、静岡県が約 30%、愛知県が約 20%、岐阜県が約 4%、中部 5 県（東海 4 県及び長野県）以外が 40%程度を占めている。また、静岡大学農学部の 2021～2023 年度入試の前期日程試験志願倍率は 2.3～3.9 倍となっており、学科ごとの定員充足率はすべて 100%を満たしている（添付資料 10）。

信州大学全学部における入学試験出願者の県別割合は、長野県が約 25%、愛知県が約 9%、岐阜県が 3%、中部 5 県（東海 4 県及び長野県）以外が 55%程度を占めている。また、信州大学農学部及び繊維学部応用生物科学科の 2021～2023 年度入試の前期日程試験志願倍率は、それぞれ 1.5～2.6 倍及び 2.4～3.8 倍となっておりコース・学科ごとの定員充足率はすべて 100%を満たしている（添付資料 10）。

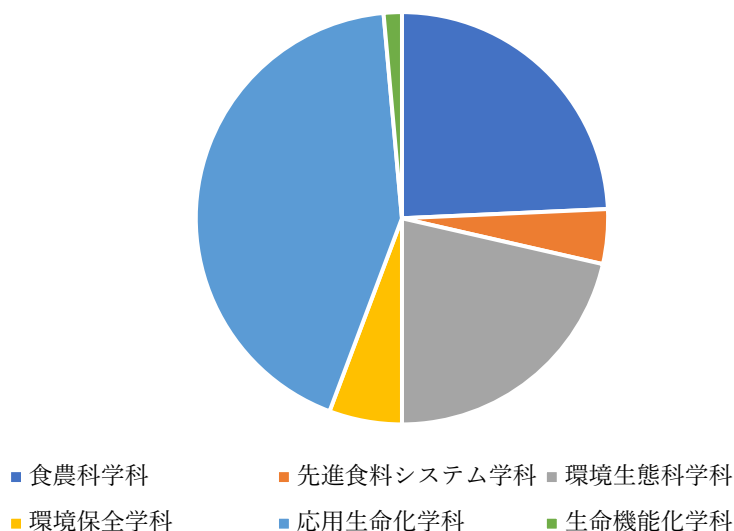
これらのことから、中部地域において十分な受験ニーズがあると判断でき、応用生物科学部に新設する 3 学科の定員を充足させることは可能であると考えられる。

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

本学においては、文部科学省の「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成 16 年 3 月 31 日 文部科学省令第 16 号）」に定める授業料、入学料及び検定料の標準額をもって設定料金としている。

③ 学生確保に関するアンケート調査

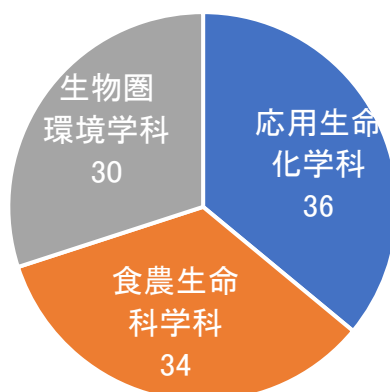
現状の 2 課程 5 コースの認識と新学科とした時の名称からの印象を問うアンケートを 2022 年 4 月初旬に実施した。本学部に進学実績のある愛知県、岐阜県の公立高校と私立高校の計 17 校の高校宛てに郵便、電話、電子メールで依頼した。QR コードを生徒に周知してもらい、各生徒が Microsoft Forms にアクセスしてアンケート（添付資料 11）に回答する方式で実施し、2,974 件の回答を得た。農学系を志望する 70 名が 1 番目に関心のある学科を集計した結果を下図に示す。



1 番目に関心のある学科（農学系のみ志望 70 名）

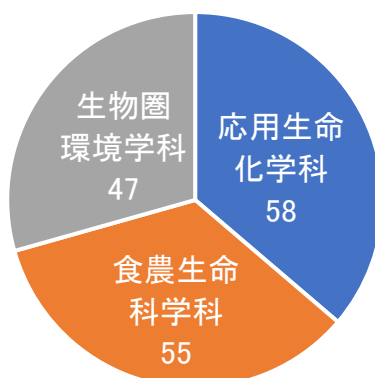
同じ教育内容である食農科学科と先進食料システム学科では食農科学科が多く、「食農」という言葉が理解されやすいことが明らかになった、環境生態科学科と環境保全学科では環境生態科学科が多く、環境系では「生態」を想起しやすいということが明らかになった。応用生命化学科と生命機能化学科では、圧倒的に応用生命化学科が多く、「応用生命化学」という言葉はすでに定着していることが明らかになった。新学科名の検討に際しては、このアンケート結果を十分に参考にした。

3 学科体制への改組案がほぼ固まってきたため、新学科のコンセプトを説明した上で高校生が関心のある学問分野や学科に関する情報を得ることを目的として 2023 年 6 月に、前回のアンケートで回答のあった本学部に進学実績のある愛知県、岐阜県の公立高校の計 13 校の高校宛てに電子メールで依頼した。QR コードを生徒に周知してもらい、各生徒が Microsoft Forms にアクセスし、新学科のコンセプトを記載した資料（を web 上で閲覧しながらアンケートに回答する方式で実施した。さらに 2023 年 8 月 9 日・10 日に開催したオープンキャンパスで本学部に来場した高校生を対象に、Microsoft Forms にアクセスし、新学科のコンセプトを記載した資料（添付資料 1 2）を web 上で閲覧しながらアンケート（添付資料 1 3）に回答する方式で実施した。岐阜県立高校から 45 件、私立高校から 37 件、愛知県立高校から 30 件、その他の都道府県からは 24 件の回答を得た。高校への 2 回目のアンケートで回収した回答を合わせて 1,674 件についてクロス集計を行った。農学志望者（189 件）が最も関心のある新学科は下図のようになった。



農学志望者（189 件）が最も関心のある新学科（数字は%）

想定している新学科の総定員 160 名を上図のパーセントで各学科に配分した結果を下図に示す。



総定員 160 名を上記件数に比例配分した結果（数字は人数）

④ 人材需要に関するアンケート調査等

3 学科体制への改組案がほぼ固まってきたため、新学科の教育方針や想定する輩出人材像について、就職先である企業や官公庁の受け取り方や期待に関する情報を得ることを目的として、学内で開催される就職関連の催しに参加する企業にアンケート調査を実施した。

2022 年 12 月 10 日・11 日に開催された岐阜大学学生企業展は大学生協と学生による企画で、毎年広く全国から企業が参加する。企業ブースにアンケート用紙と輩出する人材像に関する資料を配布し、終了時に回収し、154 件の回答を得た。

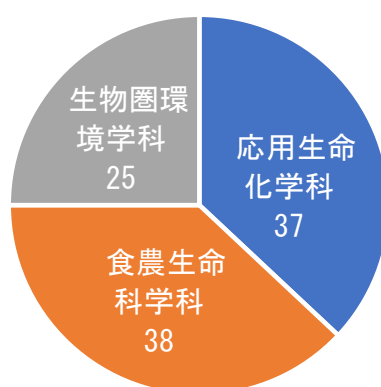
2023 年 1 月 17 日に応用生命科学課程主催の企業研究会に参加した企業に対して、アンケート用紙と輩出する人材像に関する資料を配布し、終了時に回収し、8 件の回答を得た。

2023 年 3 月 1 日に応用生物科学部主催の企業説明会に参加した企業に対して、アンケート用紙（添付資料 1 4）と輩出する人材像に関する資料（添付資料 1 5）を配布し、終了時に回収し、38 件の回答を得た。

2023 年 4 月 19 日に応用生物科学部主催の官公庁向け就職フェアに参加した官公庁に対して、アンケート用紙と輩出する人材像に関する資料を配布し、終了時に回収し、41 件の回答を得た。

4 回のアンケートで回収した全回答 241 件の内訳は、製造業（機械・鉄鋼・金属・電気・電子・建材等）56、公務員 43、情報通信 32、食品・飼料 27、サービス 24、卸売・小売 18、建設 13、金融・保険 8、製造業（化学・素材）6、農林水産 5、エネルギー 2、医療・福祉 2、不動産 1、製造業（医薬）1、無回答・その他 3 であった。

今後 20 年間で必要とされる学科の得票数は下図のようになった。

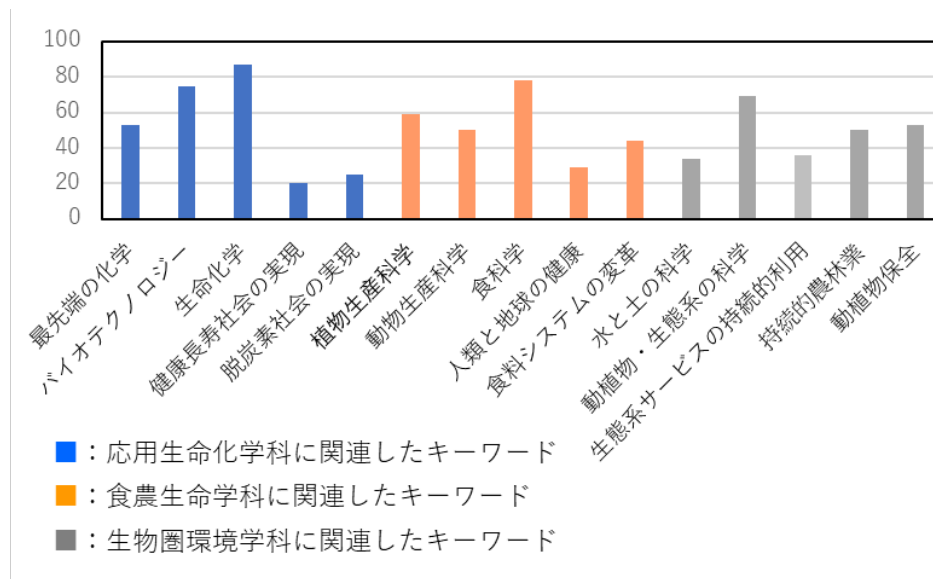


今後 20 年間で必要とされる学科（数字はパーセント，複数回答可）

また、本学部にとって重要なステークホルダーである岐阜県高等学校長協会、岐阜県農業関係高等学校代表校、岐阜県商工労働部・農政部及び岐阜県商工会議所連合会に、本学部改組による人材育成構想（添付資料 1 6）を提示して説明をさせていただいたところ、すべての機関から改組について賛同をいただき、要望書（添付資料 1 7, 1 8, 1 9, 2 0）を受領した。

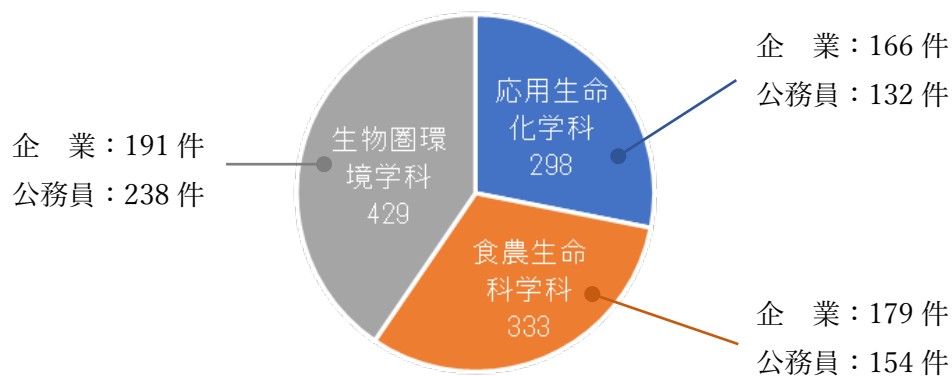
(4) 新設組織での定員設定の理由

(3) ③のとおり，オープンキャンパスで本学部に来場した高校生を対象に，改組後の新学科（応用生命化学科，食農生命科学科，生物圏環境学科）に対する高校生の意識アンケート調査を実施した結果，新学科に関連した農学分野について関心があるキーワードの回答件数は，下図に示すように各3学科におおむね均等に分散しており，3学科とも一定の関心の高さを示していた。また，上述したように，最も関心がある学科では，回答数189件のうち，応用生命化学科と回答したものが68名（全体の36%），食農生命科学科と回答したものが64名（全体の34%），生物圏環境学科と回答したものが57名（全体の30%）であり，新学科いずれも大きな偏りはなく受験生の関心の高いことが明らかとなった。



新学科に関連したキーワードに対する関心度の高さ（件数）

(3) ④のとおり，全学対象の企業展及び学部主催の説明会等に参加した企業に対して実施したアンケート結果では，今後20年で必要とされる学科については生物圏環境学科の占める割合がわずかに小さくなっていた（添付資料6）。さらに，過去5年間（2018～2022年度）における現行2課程への求人実績状況（公務員及び企業）について，現行2課程において育成する人材像から該当する新学科へ再分類したところ，下図に示すように生物圏環境学科における求人数は非常に多かった。特に，生物圏環境学科では，総計429件のうち公務員求人の占める件数が238件であり，応用生命化学科における132件及び食農生命科学科における154件に比べ，非常に多かった。すなわち，公務員等公的機関からのニーズの高いことが特徴であり，この分野の人材輩出は社会から十分な要請があると判断できる。したがって，高校生の将来への就職先の懸念についても払拭できると考えられる。



新学科に見込まれる求人数（計 1060 件，数字は件数）

最近 3 年間の志願倍率は、2021 年度前期：2.5 倍・後期：10 倍、2022 年度前期：2.1 倍・後期：14 倍、2023 年度前期：2.4 倍・後期：13 倍であり、かつ大手予備校等が公表している偏差値も近隣大学に比べ本学は高い水準を維持している。受験生の数は今後もさらに減少するが、一方で東海地方における大学への進学率は増加していることから、新学科においても十分な志願者数を見込むことができると考えられる。よって、総定員（160 名）を減員する必要はないと判断した。以上を総合して勘案した結果、入学定員は応用生命化学科 55 名，食農生命科学科 55 名，生物圏環境学科 50 名が適切であると判断した。

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	岐阜県	2058	45.7%
2	愛知県	1221	27.1%
3	静岡県	118	2.6%
3	長野県	118	2.6%
5	三重県	98	2.2%
	全 体	4501	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県）	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	岐阜県	99.21%	95.24%	92.55%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	農学系学部（大学）	102.63%	105.26%	106.84%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
学 校 推 薦 型 選 抜	募集人数	16人	13人	13人	13人	13人	14人
	延べ人数	志願者数	30人	25人	28人	19人	24人
		受験者数	28人	25人	28人	19人	24人
		合格者数	15人	13人	13人	11人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	30人	25人	28人	19人	24人
		受験者数	28人	25人	28人	19人	24人
		合格者数	15人	13人	11人	13人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	15人	13人	13人	11人	13人	13人
一 般 選 抜	募集人数	64人	67人	67人	67人	67人	66人
	延べ人数	志願者数	262人	199人	235人	258人	253人
		受験者数	179人	126人	158人	151人	164人
		合格者数	75人	80人	75人	79人	78人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	12人	8人	4人	7人
	実人数	志願者数	241人	183人	218人	225人	228人
		受験者数	171人	121人	154人	141人	156人
		合格者数	75人	80人	75人	79人	78人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	12人	8人	4人	7人
	入学者数	70人	68人	67人	75人	73人	71人
合 計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	292人	224人	263人	277人	277人
		受験者数	207人	151人	186人	170人	188人
		合格者数	90人	93人	88人	90人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	12人	8人	4人	7人
	実人数	志願者数	271人	208人	246人	244人	252人
		受験者数	199人	146人	182人	160人	180人
		合格者数	90人	93人	88人	90人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	12人	8人	4人	7人
	入学者数	85人	81人	80人	86人	86人	84人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入 学 定 員 充 足 率	1.06	1.01	1.00	1.08	1.08	1.05
歩 留 率	0.94	0.87	0.91	0.96	0.92	0.92

（備考）

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	志願者数	64人	53人	63人	43人	54人
		受験者数	64人	50人	62人	41人	53人
		合格者数	20人	20人	20人	20人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	64人	5人	63人	43人	44人
		受験者数	64人	50人	62人	41人	53人
		合格者数	20人	20人	20人	20人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
一般選抜	募集人数	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	207人	186人	236人	243人	215人
		受験者数	150人	122人	157人	160人	143人
		合格者数	70人	70人	66人	71人	69人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	3人	8人	5人
	実人数	志願者数	179人	154人	186人	186人	175人
		受験者数	136人	107人	136人	140人	127人
		合格者数	70人	70人	66人	71人	69人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	6人	3人	3人	5人
	入学者数	64人	65人	63人	63人	63人	64人
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	271人	239人	299人	286人	269人
		受験者数	214人	172人	219人	201人	196人
		合格者数	90人	90人	86人	91人	89人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	3人	8人	5人
	実人数	志願者数	243人	159人	249人	229人	220人
		受験者数	200人	157人	198人	181人	180人
		合格者数	90人	90人	86人	91人	89人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	6人	3人	3人	5人
	入学者数	84人	85人	83人	83人	83人	84人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.05	1.06	1.04	1.04	1.04	1.05
歩留率	0.93	0.94	0.97	0.91	0.94	0.94

(備考)

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：岐阜大学応用生物科学部のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	142人	1200人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象（R3開催）：計1回開催（8/18）※コロナ禍のため、WEB開催 R5年度入試対象（R4開催）：計2回開催（8/9.8/10） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 上記年度のオープンキャンパスにおいて受験者数や入学者数につながる調査は行っていないため、分析していない。
うち受験対象者数(b)	142人	1200人	
うち受験者数(c)	—	—	
うち入学者数(d)	—	—	
(受験率 c/b)	—	—	
(入学率 d/b)	—	—	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：岐阜大学応用生物科学部の出前講義・大学説明会・入試説明会等（学部紹介含む）

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	550人	780人	①取組概要 高校からの依頼に応じて毎年20件ほどの出前講義を実施し、学部案内を行っている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者数は高校3年生の受講者数とした。受験者数や入学者数につながる調査は行っていないため、分析していない。
うち受験対象者数(b)	20人	150人	
うち受験者数(c)	—	—	
うち入学者数(d)	—	—	
(受験率 c/b)	—	—	
(入学率 d/b)	—	—	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：岐阜大学応用生物科学部案内（パンフレット）送付

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	—	—	①取組概要 毎年発行している応用生物科学部案内（パンフレット）をR3年度に350校、R4年度に429校の高校に送付している。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験者数や入学者数につながる調査は行っていないため、分析していない。
うち受験対象者数(b)	—	—	
うち受験者数(c)	—	—	
うち入学者数(d)	—	—	
(受験率 c/b)	—	—	
(入学率 d/b)	—	—	

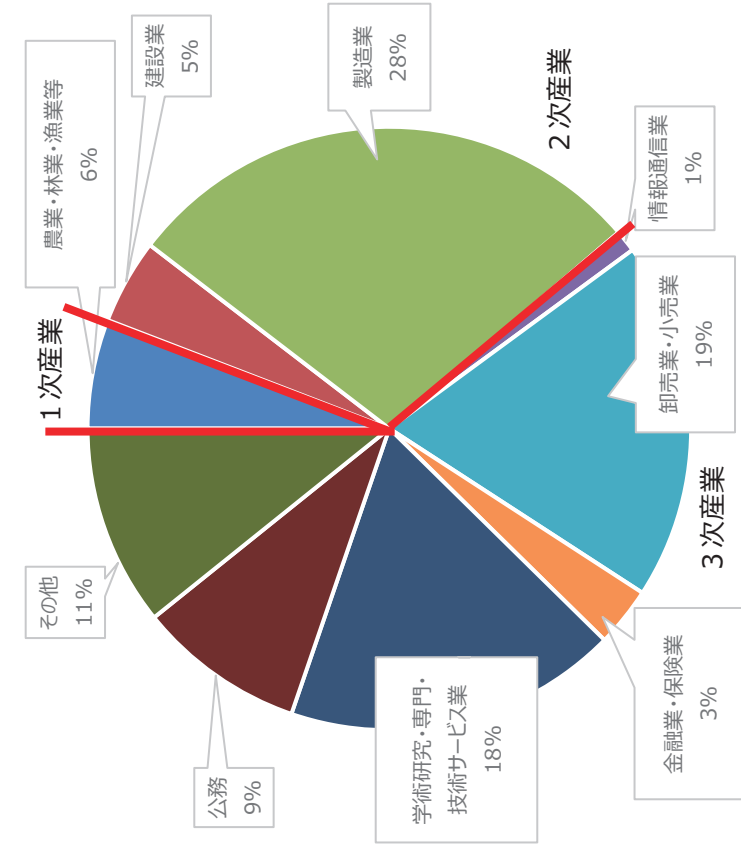
【添付資料の目次】

添付資料 1	農学関係学科卒業者の進路（産業別）
添付資料 2	学部卒業者の進路
添付資料 3	18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移
添付資料 4	入学生出身都道府県別割合
添付資料 5	愛知県（尾張）、愛知県（三河）、岐阜県出身入学者の割合
添付資料 6	学部卒業生の過去5年間就職先都道府県
添付資料 7	応用生命科学課程と生産環境科学課程の志願者状況及び入学定員充足割合
添付資料 8	岐阜大学応用生物科学部広報推進室要項
添付資料 9	オープンキャンパスアンケート結果
添付資料 10	競合大学の入試状況
添付資料 11	岐阜大学応用生物科学部の新学科名に関するアンケートへ
添付資料 12	新学科コンセプト案
添付資料 13	岐阜大学応用生物科学部の新学科に関するアンケート（高校生対象）
添付資料 14	岐阜大学応用生物科学部の新学科に関するアンケート（企業対象）
添付資料 15	社会のニーズに対応する人材輩出
添付資料 16	岐阜大学応用生物科学部再編の趣旨及び必要性
添付資料 17	岐阜大学における人材育成に関する要望書
添付資料 18	岐阜大学における人材育成に関する要望書
添付資料 19	岐阜大学応用生物科学部の再編に関する意見について
添付資料 20	岐阜大学における人材育成に関する要望書

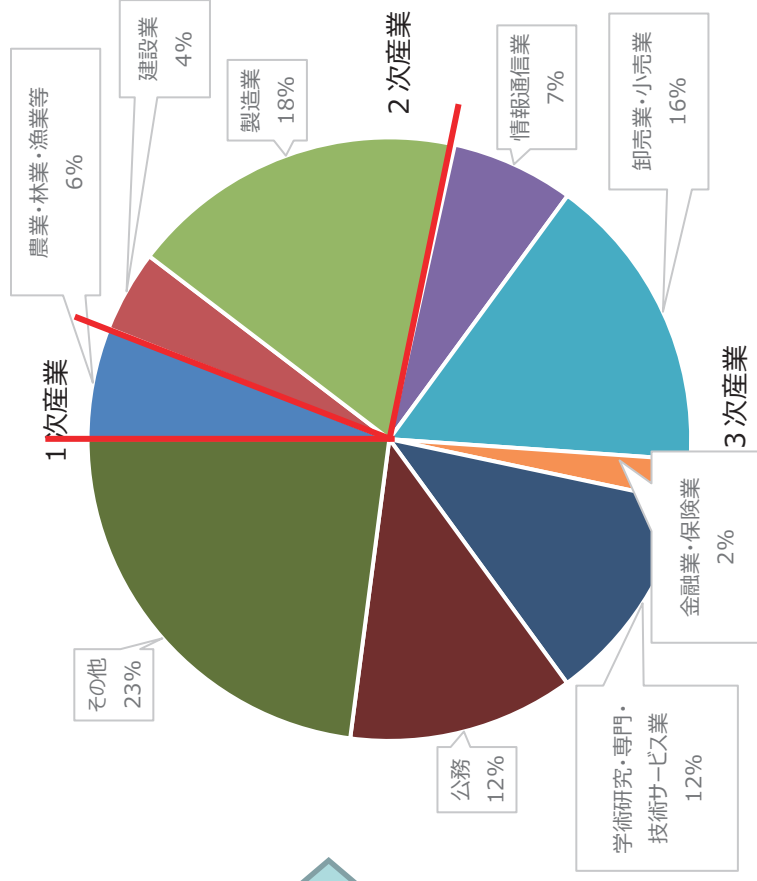
農学関係学科卒業者の進路（産業別）

- 20年前の状況と比べて、1次産業は変化は見られず、2次産業は減少（33%→23%）、3次産業は増加（61%→72%）の傾向。
- 特に、**情報通信業のほか、その他（サービス業など）など多様な産業・職種への就職が増加。**

【平成12年度】（全就職者数：9,154人）



【令和4年度】（全就職者数：11,427人）



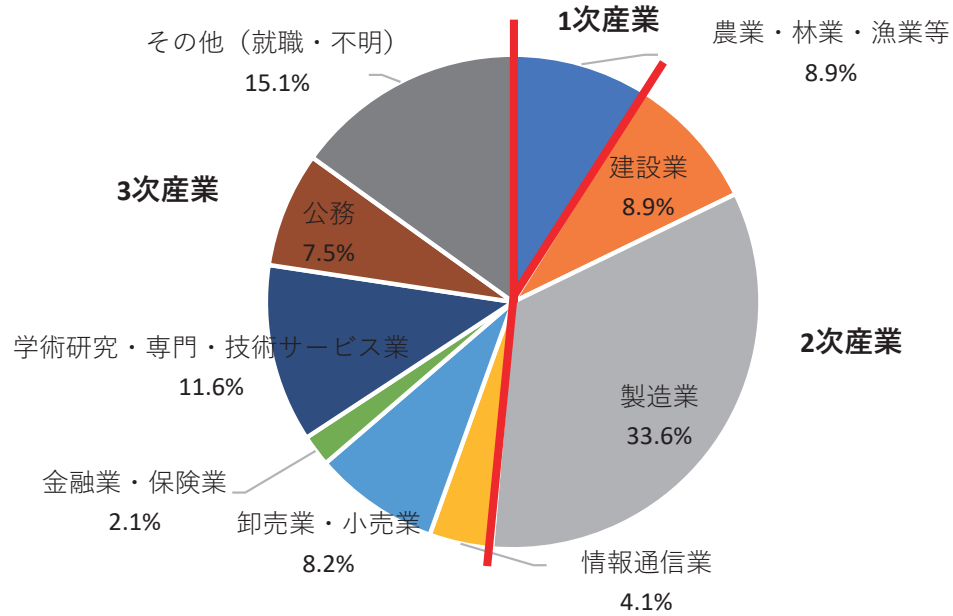
添付資料 1

【平成12年度学部卒業者の進路】

(農学部生物資源生産学科, 生物資源利用学科, 生物生産システム学科)

★進学者を除く

(進学者を除く人数を100%とした)

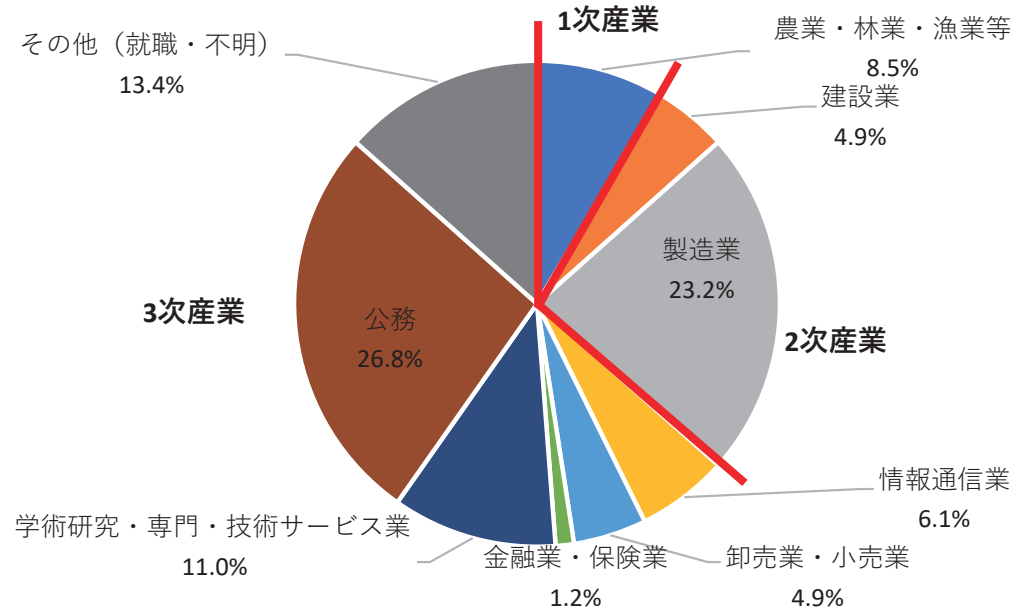


【令和4年度学部卒業者の進路】

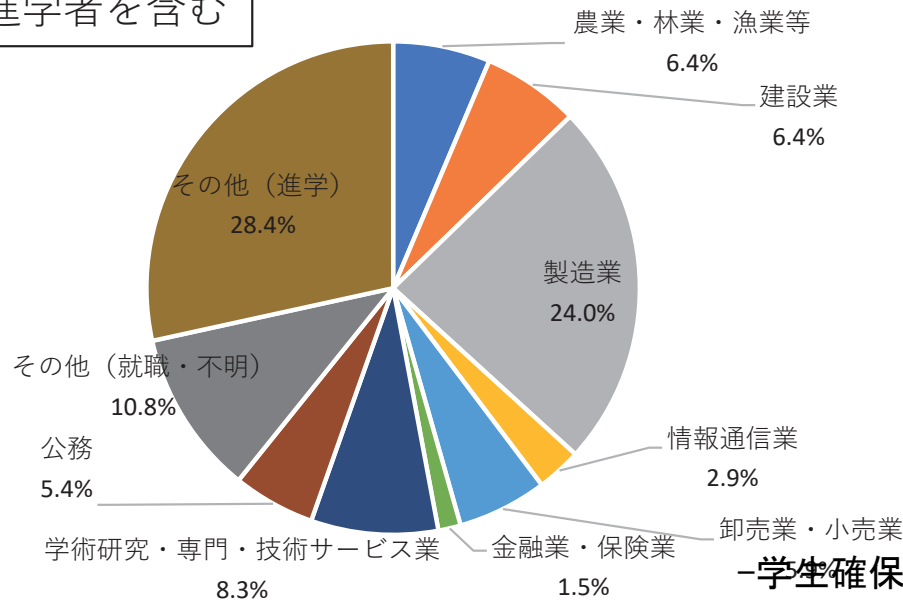
(応用生物科学部応用生命科学課程, 生産環境科学課程)

★進学者を除く

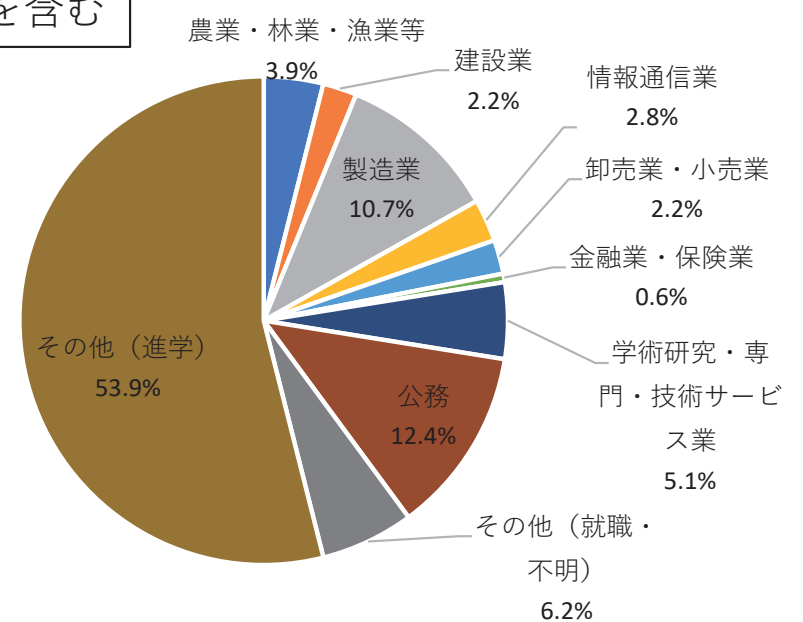
(進学者を除く人数を100%とした)



★進学者を含む

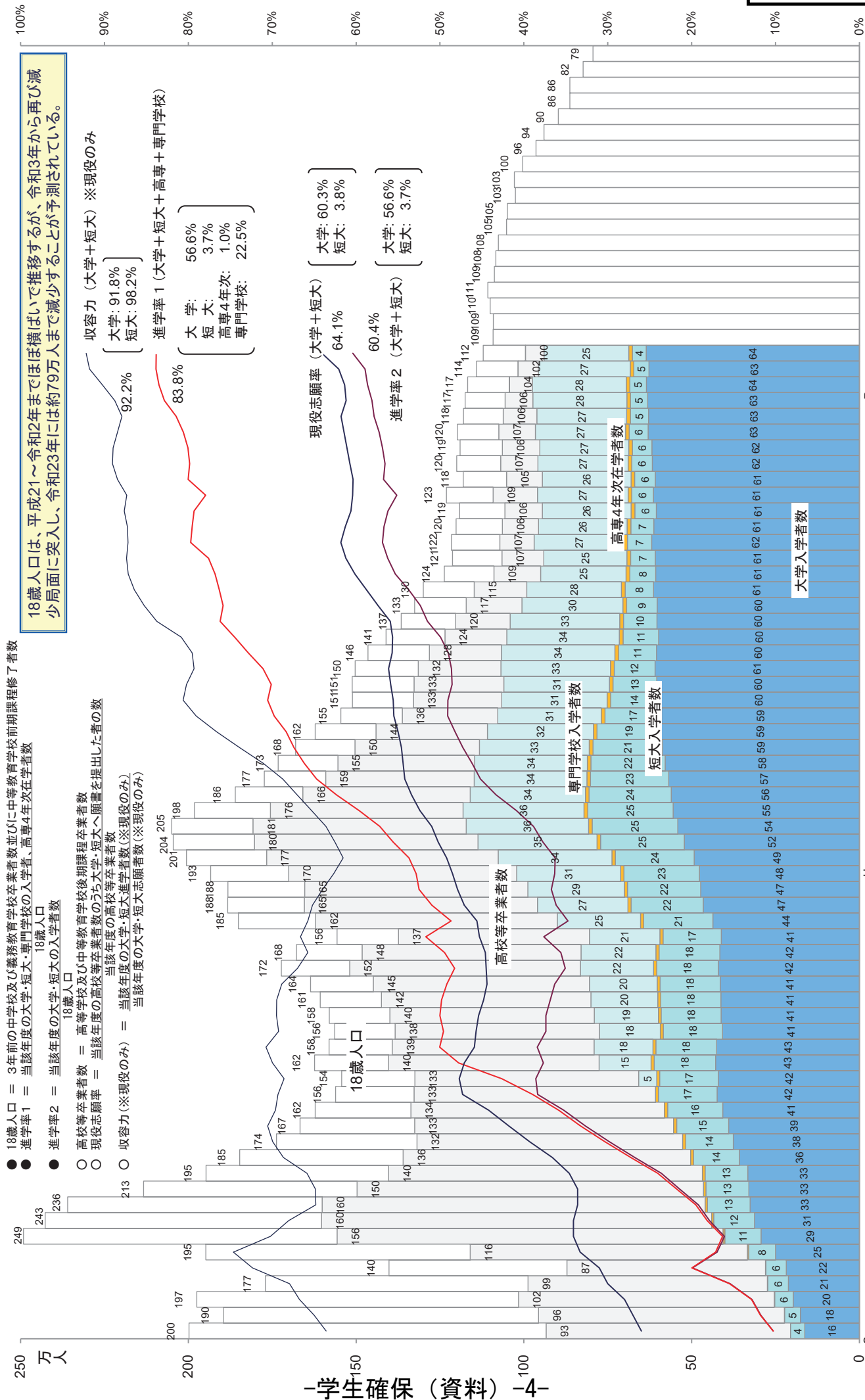


★進学者を含む



18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

添付資料 3



$S_{536373839404142434445464748495051525354555657585960616263}$ 年
 出典：文部科学省「学校基本統計」。令和5～23年については国立社会保険・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）（出生・死亡中位）」を基に作成。
 ※進学率、現役志願率については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

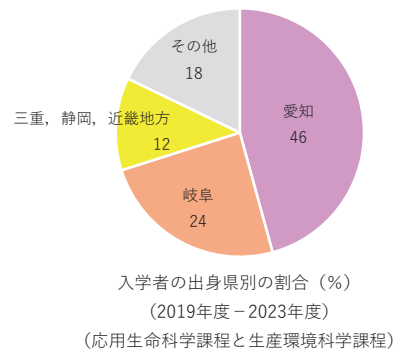
入学生出身都道府県別割合

応用生命科学課程																										
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重		
R5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	29	0	46	2		
R4	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	32	1	41	3		
R3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	19	1	49	1		
R2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	24	1	44	0		
R1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	25	1	44	8		
計	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	2	3	5	1	1	129	4	224	14		
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.24%	0.24%	0.24%	0.00%	0.00%	0.00%	0.24%	0.24%	0.48%	0.72%	1.20%	0.24%	0.24%	30.86%	0.96%	53.59%	3.35%		

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計	
R5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	86	
R4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	87	
R3	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	81	
R2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	79	
R1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	
計	4	2	5	3	1	2	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	3	418	
	0.96%	0.48%	1.20%	0.72%	0.24%	0.48%	0.00%	0.00%	0.00%	0.48%	0.00%	0.24%	0.00%	0.48%	0.00%	0.00%	0.24%	0.24%	0.00%	0.00%	0.24%	0.24%	0.24%	0.72%	100%	

生産環境科学課程																										
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重		
R5	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0	1	0	3	1	1	16	1	31	3		
R4	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3	16	5	25	2		
R3	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1	4	2	0	0	0	2	0	3	16	4	32	0		
R2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	1	0	0	0	1	15	2	39	2		
R1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	1	14	3	36	3		
計	3	0	0	1	0	1	0	3	3	1	2	3	7	7	2	2	2	8	1	9	77	15	163	10		
	0.70%	0.00%	0.00%	0.23%	0.00%	0.23%	0.00%	0.70%	0.70%	0.23%	0.47%	0.70%	1.64%	1.64%	0.47%	0.47%	0.47%	1.87%	0.23%	2.10%	17.99%	3.50%	38.08%	2.34%		

	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計	
R5	6	2	4	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	85	
R4	3	2	3	3	1	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0	0	2	85	
R3	2	2	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	84	
R2	0	4	2	1	1	2	0	0	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	2	89	
R1	0	2	2	1	2	2	0	1	3	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	85	
計	11	12	13	9	5	7	0	3	6	9	1	3	1	3	0	4	0	4	2	2	5	0	1	7	428	
	2.57%	2.80%	3.04%	2.10%	1.17%	1.64%	0.00%	0.70%	1.40%	2.10%	0.23%	0.70%	0.23%	0.70%	0.00%	0.93%	0.00%	0.93%	0.47%	0.47%	1.17%	0.00%	0.23%	1.64%	100%	



愛知県（尾張），愛知県（三河），岐阜県出身入学者の割合

応用生命科学課程と生産環境科学課程									
入学年度	愛知県（尾張）	年度ごと割合	愛知県（三河）	年度ごと割合	岐阜県	年度ごと割合	その他	年度ごと割合	総合計
H31	63	37.06%	17	10.00%	39	22.94%	51	30.00%	170
R2	61	36.31%	20	11.90%	38	22.62%	49	29.17%	168
R3	60	36.36%	19	11.52%	37	22.42%	49	29.70%	165
R4	57	33.14%	8	4.65%	49	28.49%	58	33.72%	172
R5	58	33.92%	22	12.87%	45	26.32%	46	26.90%	171
合計	299	35.34%	86	10.17%	208	24.59%	253	29.91%	846

※その他には愛知県・岐阜県以外出身の学生と留学生含む

学部卒業生の過去5年間就職先都道府県(H30～R4)

就職先	H30	R1	R2	R3	R4	総計
北海道	1			1		2
青森県						
岩手県		1				1
宮城県			1	1		2
秋田県						
山形県						
福島県	1	2				3
群馬県						
栃木県						
茨城県	1					1
埼玉県						
千葉県	2	1	1			4
東京都	9	9	14	18	12	62
神奈川県	1	4			1	6
新潟県						
富山県	1					1
石川県	1		2	1	1	5
福井県	4					4
山梨県	1			1		2
長野県		2		1	4	7
岐阜県	15	18	13	7	18	71
静岡県	2	1	5	3	1	12
愛知県	28	28	27	24	28	135
三重県	2	4	1		3	10
滋賀県	1		1	1		3
京都府	1	2			2	5
大阪府	4	2	1	1	3	11
兵庫県	4	1				5
奈良県						
和歌山県						
鳥取県						
島根県						
岡山県						
広島県		1	1	2		4
山口県						
徳島県		1				1
香川県						
愛媛県	2					2
高知県						
福岡県			2		1	3
佐賀県						
長崎県						
熊本県					1	1
大分県			1			1
宮崎県						
鹿児島県			1			1
沖縄県						
海外						
不明						
総計	81	77	71	61	75	365

学部卒業生の過去5年間(H30～R4)

	H30	R1	R2	R3	R4	総計
進学者	101	83	90	106	96	476
その他	1	4	7	10	7	29

応用生命科学課程と生産環境科学課程の志願者状況及び入学定員充足割合

年度		R1				R2		R3		R4		R5	
募集人員		応用生命		生産環境		応用生命	生産環境	応用生命	生産環境	応用生命	生産環境	応用生命	生産環境
		80		80		80	80	80	80	80	80	80	80
推薦入学Ⅰ	区分	専門 総合	S S H 理数科	専門 総合	S S H 理数科	専門 総合	専門 総合	専門 総合	専門 総合	専門 総合	専門 総合	専門 総合	専門 総合
	募集人員	3	3	5	5	3	5	3	5	3	5	3	5
	志願者数	2	11	12	13	7	10	6	13	3	9	5	10
	入学者数	2	3	5	5	3	5	3	5	2	5	3	5
推薦入学Ⅱ	募集人員	10		10		10	15	10	15	10	15	10	15
	志願者数	17		39		18	43	22	50	16	34	15	36
	入学者数	10		10		10	15	10	15	9	15	10	15
前期	募集人員	54		50		57	50	57	50	57	50	57	50
	志願者数	131		117		107	104	135	134	102	122	137	92
	入学者数	58		53		59	55	60	53	62	53	62	54
後期	募集人員	10		10		10	10	10	10	10	10	10	10
	志願者数	121		81		92	82	100	102	156	121	161	95
	入学者数	12		11		9	10	7	10	13	10	11	9
入学者数		85		84		81	85	80	83	86	83	86	83
過不足		5		4		1	5	0	3	6	3	6	3
定員充足率		106.25%		105.00%		101.25%	106.25%	100.00%	103.75%	107.50%	103.75%	107.50%	103.75%

岐阜大学応用生物科学部広報推進室要項

平成 19 年 4 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 岐阜大学応用生物科学部における広報を組織的・効率的に推進するため、本学部に岐阜大学応用生物科学部広報推進室（以下「広報推進室」という。）を置く。

(組織)

第 2 広報推進室は、次の各号に掲げる室員で組織する。

- 一 副学部長（企画・評価担当）
- 二 学部長が指名する教員 若干名
- 三 事務職員（総務係、学務係各 1 名）
- 四 その他推進室が必要と認めた者

(所掌事項)

第 3 広報推進室は、次の各号に掲げる事項を行う。

- 一 受験生に対する広報に関すること。
- 二 学部広報誌紙の編集に関すること。
- 三 学部公式ホームページの編集に関すること。
- 四 公開講座・市民講座に関すること。
- 五 その他、本学部の広報に関して必要と認めたこと。

(室長)

第 4 広報推進室に室長を置く。

- 2 室長は、副学部長をもって充てる。
- 3 室長は、広報推進室に関する業務を掌理し、必要に応じて会議を招集し、その議長となる。
- 4 室長に事故があるときは、室長があらかじめ指名する室員がその職務を代理する。

(室員以外の者の会議への出席)

第 5 広報推進室が必要と認めるときは、室員以外の者に会議への出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 広報推進室の庶務は、事務部総務係において処理する。

附 則

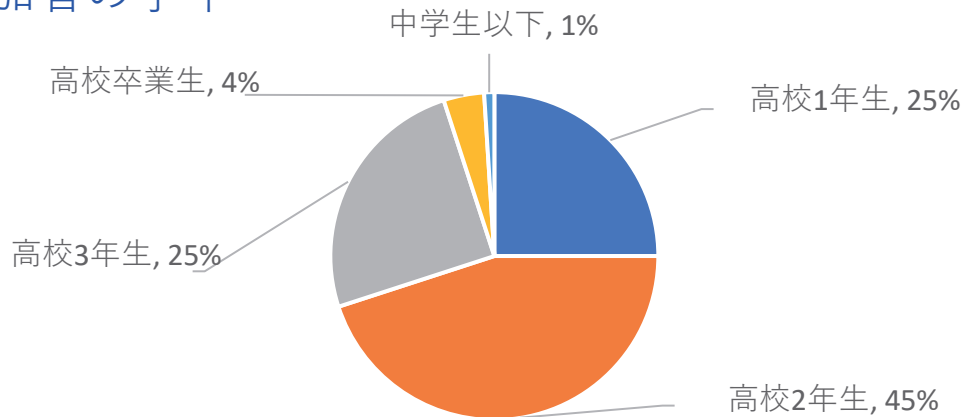
この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

オープンキャンパスアンケート結果

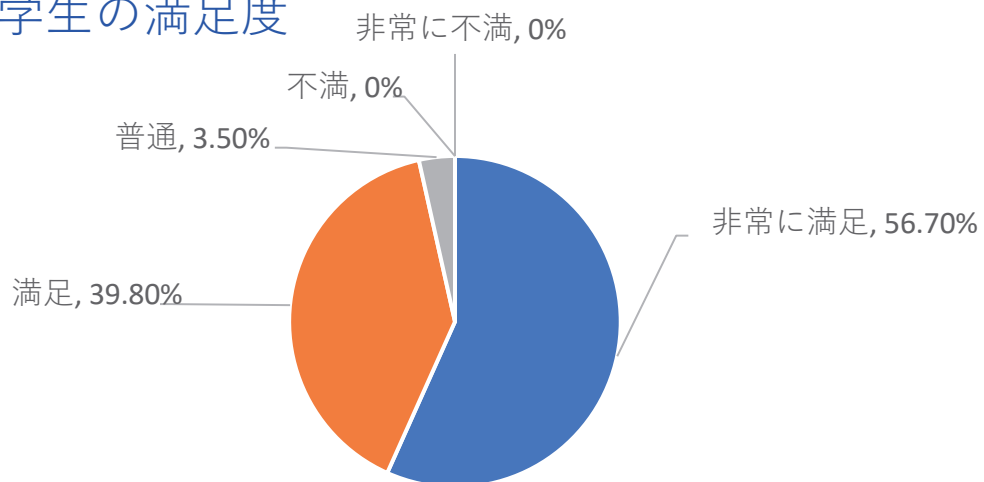
実施日程：令和5年8月9日、10日

参加人数：1,883名（男性：598名、女性：1285名）

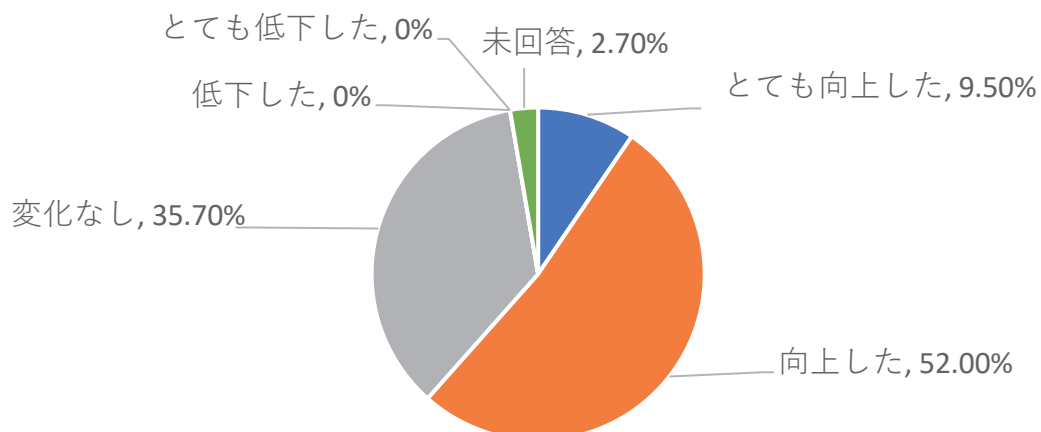
参加者の学年



参加学生の満足度



オープンキャンパスに参加した学生の志望度の変化



競合大学の入試状況（令和3～5年度）

三重大学 生物資源学部

令和5年度（2023年度）入試

大学	学部	学科	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
三 重 大 学	生 物 資 源 学 部	資源循環学科	前期日程	33	52	43	42	39	1.6	1.3	1.2
			後期日程	15	119	50	19	17	7.9	3.3	1.1
			推薦I	5	11	11	3	3	2.2	2.2	0.6
			推薦II	15	24	23	15	15	1.6	1.5	1.0
		共生環境学科	前期日程	35	147	139	57	50	4.2	4.0	1.4
			後期日程	15	158	57	25	16	10.5	3.8	1.1
			推薦I	3	2	2	0	0	0.7	0.7	0.0
			推薦II	15	10	10	5	5	0.7	0.7	0.3
		生物圏生命化学科	前期日程	43	126	109	52	48	2.9	2.5	1.1
			後期日程	17	189	61	22	18	11.1	3.6	1.1
			推薦I	2	3	3	0	0	1.5	1.5	0.0
			推薦II	16	33	33	18	18	2.1	2.1	1.1
		海洋生物資源学科	前期日程	22	59	51	27	27	2.7	2.3	1.2
			後期日程	8	88	30	9	8	11.0	3.8	1.0
			推薦I	2	5	5	2	2	2.5	2.5	1.0
			推薦II	6	25	25	6	6	4.2	4.2	1.0
		学部合計		252	1051	652	302	272	4.2	2.6	1.1

大学ホームページの公表データをまとめた。帰国生徒特別選抜（募集定員4名）及び社会人特別選抜（募集定員4名）を除いた人数を示した。

令和4年度（2022年度）入試

大学	学部	学科	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
三 重 大 学	生 物 資 源 学 部	資源循環学科	前期日程	33	73	66	43	42	2.2	2.0	1.3
			後期日程	15	79	28	17	14	5.3	1.9	0.9
			推薦I	5	13	13	9	9	2.6	2.6	1.8
			推薦II	15	11	11	9	9	0.7	0.7	0.6
		共生環境学科	前期日程	35	108	99	50	45	3.1	2.8	1.3
			後期日程	15	70	32	20	17	4.7	2.1	1.1
			推薦I	3	4	4	3	3	1.3	1.3	1.0
			推薦II	15	17	17	9	9	1.1	1.1	0.6
		生物圏生命化学科	前期日程	43	103	87	46	44	2.4	2.0	1.0
			後期日程	17	96	27	20	15	5.6	1.6	0.9
			推薦I	2	1	1	0	0	0.5	0.5	0.0
			推薦II	16	36	36	24	24	2.3	2.3	1.5
		海洋生物資源学科	前期日程	22	76	69	29	26	3.5	3.1	1.2
			後期日程	8	61	20	12	9	7.6	2.5	1.1
			推薦I	2	1	1	0	0	0.5	0.5	0.0
			推薦II	6	23	23	6	6	3.8	3.8	1.0
		学部合計		252	772	534	297	272	3.1	2.1	1.1

大学ホームページの公表データをまとめた。帰国生徒特別選抜（募集定員4名）及び社会人特別選抜（募集定員4名）を除いた人数を示した。

令和3年度（2021年度）入試

大学	学部	学科	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
三 重 大 学	生 物 資 源 学 部	資源循環学科	前期日程	33	86	77	45	42	2.6	2.3	1.3
			後期日程	15	143	65	18	16	9.5	4.3	1.1
			推薦I	5	8	8	4	4	1.6	1.6	0.8
			推薦II	15	14	14	13	13	0.9	0.9	0.9
		共生環境学科	前期日程	35	101	95	56	50	2.9	2.7	1.4
			後期日程	15	90	49	17	13	6.0	3.3	0.9
			推薦I	3	3	3	2	2	1.0	1.0	0.7
			推薦II	15	11	11	7	7	0.7	0.7	0.5
		生物圏生命化学科	前期日程	43	118	101	48	45	2.7	2.3	1.0
			後期日程	17	161	59	22	17	9.5	3.5	1.0
			推薦I	2	1	1	1	1	0.5	0.5	0.5
			推薦II	16	31	31	20	20	1.9	1.9	1.3
		海洋生物資源学科	前期日程	22	99	85	28	28	4.5	3.9	1.3
			後期日程	8	67	29	9	7	8.4	3.6	0.9
			推薦I	2	6	5	0	0	3.0	2.5	0.0
			推薦II	6	30	30	7	7	5.0	5.0	1.2
		学部合計		252	969	663	297	272	3.8	2.6	1.1

大学ホームページの公表データをまとめた。帰国生徒特別選抜（募集定員4名）及び社会人特別選抜（募集定員4名）を除いた人数を示した。

競合大学の入試状況（令和3～5年度）

静岡大学 農学部

令和5年度（2023年度）入試

大学	学部	学科	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
静岡大学	農学部	生物資源科学科	前期日程	45	175	159	60	58	3.9	3.5	1.3
			後期日程	25	240	93	34	28	9.6	3.7	1.1
			学校推薦	23	19	19	11	11	0.8	0.8	0.5
			総合型	12	35	35	12	12	2.9	2.9	1.0
		応用生命化学科	前期日程	35	105	93	44	40	3.0	2.7	1.1
			後期日程	20	188	62	26	22	9.4	3.1	1.1
			学校推薦	15	19	19	10	10	1.3	1.3	0.7
		学部全体		175	781	480	197	181	4.5	2.7	1.0

大学ホームページの公表データをまとめた。

令和4年度（2022年度）入試

大学	学部	学科	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
静岡大学	農学部	生物資源科学科	前期日程	45	125	100	49	46	2.8	2.2	1.0
			後期日程	25	211	84	40	34	8.4	3.4	1.4
			学校推薦	25	34	34	21	21	1.4	1.4	0.8
			総合型	15	28	28	15	15	1.9	1.9	1.0
		応用生命化学科	前期日程	35	113	100	45	43	3.2	2.9	1.2
			後期日程	20	137	47	28	19	6.9	2.4	1.0
			学校推薦	15	15	15	8	8	1.0	1.0	0.5
		学部全体		180	663	408	206	186	3.7	2.3	1.0

大学ホームページの公表データをまとめた。

令和3年度（2021年度）入試

大学	学部	学科	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
静岡大学	農学部	生物資源科学科	前期日程	45	105	83	52	48	2.3	1.8	1.1
			後期日程	25	168	61	39	28	6.7	2.4	1.1
			学校推薦	25	24	24	19	19	1.0	1.0	0.8
			総合型	15	26	26	15	15	1.7	1.7	1.0
		応用生命化学科	前期日程	35	105	87	38	33	3.0	2.5	0.9
			後期日程	20	142	56	32	28	7.1	2.8	1.4
			学校推薦	15	23	23	15	15	1.5	1.5	1.0
		学部全体		180	593	360	210	186	3.3	2.0	1.0

大学ホームページの公表データをまとめた。

競合大学の入試状況（令和3～5年度）

信州大学 農学部・繊維学部応用生物科学科

令和5年度（2023年度）入試

大学	学部	学科	コース	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率	
信州大学	農学部	農学生命科学科	生命機能科学	前期日程	23	56	55	23	23	2.4	2.4	1.0	
				推薦Ⅰ（高校全学科対象）	9	15	15	9	9	1.7	1.7	1.0	
			動物資源生命科学	前期日程	23	59	52	27	27	2.6	2.3	1.2	
				推薦Ⅰ（高校全学科対象）	9	15	15	10	10	1.7	1.7	1.1	
			植物資源科学	前期日程	23	54	52	27	27	2.3	2.3	1.2	
				推薦Ⅰ（高校全学科対象）	9	18	18	11	11	2.0	2.0	1.2	
			森林・環境共生学	前期日程	23	46	44	25	24	2.0	1.9	1.0	
				推薦Ⅰ（高校全学科対象）	9	20	20	10	10	2.2	2.2	1.1	
			農学生命科学科（４コース）	後期日程	36	244	96	36	27	6.8	2.7	0.8	
				推薦Ⅰ（職業教育を主とする学科等）	6	14	14	6	6	2.3	2.3	1.0	
		農学部全体				170	541	381	184	174	3.2	2.2	1.0
		繊維学部	応用生物科学科	前期日程	23	87	82	27	--	3.8	3.6	--	
	後期日程			15	93	46	15	--	6.2	3.1	--		
	推薦Ⅰ（高校全学科対象）			12	40	39	14	14	3.3	3.3	1.2		
	応用生物科学科全体			50	220	167	56	53	4.4	3.3	1.1		

大学ホームページの公表データをまとめた。繊維学部応用生物科学科の前期日程及び後期日程それぞれに対する入学者数はホームページ上で公表されていなかったため、空欄とした。

令和4年度（2022年度）入試

大学	学部	学科	コース	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率		
信州大学	農学部	農学生命科学科	生命機能科学	前期日程	30	50	48	32	30	1.7	1.6	1.0		
				推薦I	9	13	13	9	9	1.4	1.4	1.0		
			動物資源生命科学	前期日程	25	38	37	27	26	1.5	1.5	1.0		
				推薦I	9	19	19	9	9	2.1	2.1	1.0		
			植物資源科学	前期日程	30	44	44	34	32	1.5	1.5	1.1		
				推薦I	9	24	24	10	10	2.7	2.7	1.1		
			森林・環境共生学	前期日程	25	45	43	27	27	1.8	1.7	1.1		
				推薦I	9	13	13	9	9	1.4	1.4	1.0		
			農学生命科学科（4コース）			後期日程	24	183	68	26	17	7.6	2.8	0.7
			農学部全体				170	429	309	183	169	2.5	1.8	1.0
	繊維学部	応用生物科学科	前期日程	23	55	53	28	--	2.4	2.3	--			
			後期日程	15	61	31	15	--	4.1	2.1	--			
			推薦I	12	30	30	13	13	2.5	2.5	1.1			
			応用生物科学科全体			50	146	114	56	50	2.9	2.3	1.0	

大学ホームページの公表データをまとめた。繊維学部応用生物科学科の前期日程及び後期日程それぞれに対する入学者数はホームページ上で公表されていなかったため、空欄とした。

令和3年度（2021年度）入試

大学	学部	学科	コース	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率		
信州大学	農学部	農学生命科学科	生命機能科学	前期日程	30	50	47	33	30	1.7	1.6	1.0		
				推薦I	9	21	21	9	9	2.3	2.3	1.0		
			動物資源生命科学	前期日程	25	48	44	27	26	1.9	1.8	1.0		
				推薦I	9	13	13	9	9	1.4	1.4	1.0		
			植物資源科学	前期日程	30	62	59	33	33	2.1	2.0	1.1		
				推薦I	9	18	18	9	9	2.0	2.0	1.0		
			森林・環境共生学	前期日程	25	44	44	27	26	1.8	1.8	1.0		
				推薦I	9	20	20	9	9	2.2	2.2	1.0		
			農学生命科学科（4コース）			後期日程	24	204	65	29	23	8.5	2.7	1.0
			農学部全体				170	480	331	185	174	2.8	1.9	1.0
	繊維学部		応用生物科学科	前期日程	23	67	66	27	--	2.9	2.9	--		
				後期日程	15	99	43	17	--	6.6	2.9	--		
				推薦I	12	27	27	13	13	2.3	2.3	1.1		
				応用生物科学科全体				50	193	136	57	54	3.9	2.7

大学ホームページの公表データをまとめた。繊維学部応用生物科学科の前期日程及び後期日程それぞれに対する入学者数はホームページ上で公表されていなかったため、空欄とした。

岐阜大学応用生物科学部の新学科名に関するアンケートへのご協力をお願い

岐阜大学応用生物科学部では学科構成の見直しを検討しています。高校生の皆さんから「新学科がどのように見えるのか」を知るため、貴校のご協力を得て、アンケートを実施させていただくことになりました。
携帯から簡単に回答できますので、是非ご協力ください。

【アクセスと回答の仕方】

右の QR コードを読み込み、Microsoft Forms によるアンケートに回答するだけです。

理系だけでなく、文系の方も是非ご回答ください。

QR コードを読み込めない場合は下記 URL アドレスをご入力ください。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=YdWtKY7iUucT1cuSSLeQGRMphzvfJJLm1jJEJXRxdUMDICOUlzTUEvNTU2NINXVEIYODMwUVg3Ui4u>



【アンケート内容】

下記と同じ項目について Microsoft Forms で回答してください。

○ 質問項目

1. 高校名を記入してください。(記入)
2. 学年は？：○1年生 ○2年生 ○3年生
3. 理系クラスですか？文系クラスですか？：○理系 ○文系 ○未定
4. 進路希望は？：○就職 ○大学 ○短大 ○専門学校
5. 大学進学をしたらどの分野を選択しますか？(複数回答可)：

☐ 法律	☐ 政治	☐ 社会	☐ 文学	☐ 人文	☐ 心理	☐ 教育	☐ 福祉
☐ 芸術	☐ 教養	☐ 看護	☐ 保健	☐ 衛生	☐ 経済	☐ 経営	☐ 商学
☐ 国際	☐ 外国語	☐ 生活	☐ 健康	☐ スポーツ	☐ 理学	☐ 工学	☐ 医学
☐ 歯学	☐ 薬学	☐ 農学	☐ 獣医学				
6. 岐阜大学応用生物科学部では以下のような研究が行われていることをご存じですか？
 - ① さまざまな生命現象の仕組みを明らかにし、医薬品や食品、化成品などの開発に応用するための研究：○知っていた ○知らなかった
 - ② 食品の持つ栄養性・嗜好性・健康維持機能を明らかにし、食品の製造から流通・消費に関わる技術の開発に応用するための研究：○知っていた ○知らなかった
 - ③ 植物の生理応答の仕組みや植物共生微生物の機能を明らかにし、持続的かつ効率的な農作物生産技術の開発に応用するための研究：○知っていた ○知らなかった
 - ④ 動物の繁殖や生理応答、行動の仕組みを明らかにし、環境と動物福祉に配慮した家畜生産や野生動物の保全などに関わる技術の開発に応用するための研究：○知っていた ○知らなかった
 - ⑤ 自然環境中での動植物の生態や物質循環の仕組みを明らかにし、生態系と人間社会の調和や森林・流域・耕地生態系の保全・管理・修復に貢献する研究：○知っていた ○知らなかった
 - ⑥ 動物の疾病の仕組みを明らかにし、産業動物や伴侶動物の病気の診断治療・予防技術の開発に貢献する研究：○知っていた ○知らなかった
7. 岐阜大学応用生物科学部では学科構成の見直しを検討しています。キーワードに関係が深いと思われる学科名を選んでください。(複数回答可)。
 - 1) 農作物：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 2) 家畜：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 3) 野生生物：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 4) 脱炭素：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 5) SDGs：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 6) 食料生産：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 7) 健康：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 8) 遺伝子・DNA・細胞：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 9) 動物園(動物)：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 10) 物質循環：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 11) 食品機能：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 12) 食品加工・流通：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 13) 医薬品：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 14) 森林：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 15) 農地：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
 - 16) 河川：☐先進食料システム学科 ☐食農科学科 ☐環境生態科学科 ☐環境保全学科 ☐応用生命化学科 ☐生命機能化学科
8. 学科名からあなたが関心をもった学科があれば教えてください。複数ある場合は、関心度の高い順に教えてください。
 - 1) 最も関心のある学科：○先進食料システム学科 ○食農科学科 ○環境生態科学科 ○環境保全学科 ○応用生命化学科 ○生命機能化学科
 - 2) 2 番目に関心のある学科：○先進食料システム学科 ○食農科学科 ○環境生態科学科 ○環境保全学科 ○応用生命化学科 ○生命機能化学科
 - 3) 3 番目に関心のある学科：○先進食料システム学科 ○食農科学科 ○環境生態科学科 ○環境保全学科 ○応用生命化学科 ○生命機能化学科

新学科コンセプト案 (案であり、決定事項ではありません)

応用生命化学科

化学×バイオで新たな未来を創造

最先端の化学とバイオテクノロジーの教育・研究を通じて、生命化学に立脚したアプローチにより健康長寿社会や脱炭素社会の実現など、現代社会が抱える課題を解決できる人材を養成。

「創薬化学」「バイオマス化学」「ゲノム科学」「分子生物学」「予防医学と健康科学」
「動物生命科学」「植物生命科学」「微生物学」「生命データサイエンス」など



食農生命科学科

農学×食科学で持続可能な食料システムへ

最新の植物・動物生産科学と食科学に関する教育と研究を通じて、食料安全保障強化や食品・農業分野の環境負荷低減、新しい機能的食品の開発などに貢献できる人材を養成。

「動物管理学」「動物飼養学」「植物環境制御学」「植物保護学」「食品栄養機能学」
「食品保蔵学」「食農データサイエンス」など



生物圏環境学科

フィールド×データサイエンスで生態系サービスを持続的に活用

水と土、動植物、生態系の科学と活用技術の教育・研究を通じて、生態系の力を活用した、未来につながる持続的農林業や動植物保全のフィールドで活躍できる人材を養成。

「水・物質循環学」「森林流域管理学」「動物園学」「動物保全遺伝学」「野外総合調査法」
「環境化学分析法」「生態環境データサイエンス」など



岐阜大学応用生物科学部の新学科に関するアンケートへのご協力をお願い

岐阜大学応用生物科学部では現行 2 課程(応用生命科学, 生産環境科学)の構成を見直し, 生物圏環境科学科, 食農生命科学科, 応用生命化学科(いずれも仮称)の 3 学科体制に移行することを検討しています(共同獣医学科はそのまゝ)。高校生の皆さんから「新学科がどのように見えるのか」を知るため, オープンキャンパスでご来場の皆さんを対象にアンケートをさせていただくことにいたしました。携帯から簡単に回答できますので, 是非ご協力ください。

【アクセスと回答の仕方】

右の QR コードを読み込み, Microsoft Forms によるアンケートに回答するだけです。
QR コードを読み込めない場合は下記 URL アドレスをご入力ください。

<https://forms.office.com/r/8UTqgyYp60>

下記と同じ項目について Microsoft Forms で回答するか, または本用紙に☑を記入して回収箱に入れて帰ってください。



- 高校名を記入してください。(記入)
- 学年は? : ○1 年生 ○2 年生 ○3 年生
- 理系クラスですか? 文系クラスですか? : ○理系 ○文系 ○未定・その他
- 大学進学をするとしたらどの分野を選択しますか? (複数回答可):
☐ 農学 ☐ 獣医学 ☐ 薬学 ☐ 歯学 ☐ 医学 ☐ 工学 ☐ 理学 ☐ 生活・健康・スポーツ ☐ 国際・外国語
☐ 経済・経営・商学 ☐ 看護・保健・衛生・福祉 ☐ 教養 ☐ 芸術 ☐ 教育 ☐ 文学・人文・心理 ☐ 法律・政治・社会
- 進学希望の学科を選択する際に, あなたが重視する点を教えてください(複数回答可):
☐ 偏差値(学部・学科) ☐ カリキュラム(授業科目・内容) ☐ 受験科目 ☐ 研究内容 ☐ 就職先・就職率
☐ 担任や進路指導の先生の助言 ☐ 保護者や親族の意見
- 現行の課程・学科についておたずねします。応用生命科学課程(2 コース), 生産環境科学課程(3 コース), 共同獣医学科の中で, あなたが最も関心のある課程(コース)または学科を教えてください。
☐ 分子生命科学コース(応用生命科学) ☐ 食品生命科学コース(応用生命科学)
☐ 応用植物科学コース(生産環境科学) ☐ 応用動物科学コース(生産環境科学)
☐ 環境生態科学コース(生産環境科学) ☐ 共同獣医学科
- 新学科についておたずねします。新学科コンセプトの資料(裏面)を見て, あなたが関心をもったキーワードがあれば教えてください(複数回答可):
☐ 最先端の化学 ☐ バイオテクノロジー ☐ 生命化学 ☐ 創薬・健康科学 ☐ 脱炭素社会の実現 ☐ 植物生産科学 ☐ 動物生産科学 ☐ 食科学 ☐ 食料システム ☐ 水と土の科学 ☐ 動植物・生態系の科学 ☐ 生態系サービスの持続的利用 ☐ 持続的農林業 ☐ 動植物保全 ☐ 機能性食品 ☐ 食料安全保障
- 新学科コンセプトの資料を見て, 3 学科の中であなたが関心をもった学科があれば教えてください。複数ある場合は, 関心度の高い順に教えてください。
 1) 最も関心のある学科(複数回答可): ☐ 応用生命化学科 ☐ 食農生命科学科 ☐ 生物圏環境学科
 2) 2 番目に関心のある学科(複数回答可): ☐ 応用生命化学科 ☐ 食農生命科学科 ☐ 生物圏環境学科
 3) 3 番目に関心のある学科(複数回答可): ☐ 応用生命化学科 ☐ 食農生命科学科 ☐ 生物圏環境学科
- 併願も含めて現在農学系へ進学を検討中のみなさんにお伺いします。「岐阜大学応用生物科学部を受験する」としたら」という立場でご回答ください。
 1) 個別学力検査(学部入試)理科のテストで 1 科目が課されるとしたら, あなたはどの科目を選択するか教えてください: ○生物 ○化学 ○物理 ○理科を課されるなら受験しない
 2) 個別学力検査(学部入試)理科のテストで 2 科目が課されるとしたら, あなたは以下のいずれの組み合わせを選択するか教えてください: ○生物+化学 ○化学+物理 ○物理+生物 ○2 科目なら受験しない
 3) 個別学力検査(学部入試)で英語が課されるとしたら, 受験を見合わせますか? : ○受験する ○受験しない
 4) 受験をするにあたって, 大学入学共通テストと個別学力検査(学部入試)の配点について, 受験を見合わせる可能性がある配点パターンについて教えてください(複数回答可):
☐ 大学入学共通テストの配点の方が高い ☐ 個別学力検査の配点の方が高い
☐ 大学入学共通テストと個別学力検査が同配点

岐阜大学応用生物科学部の新学科に関するアンケートへのご協力をお願い

岐阜大学応用生物科学部では現行の2課程（応用生命科学、生産環境科学）の構成を見直し、生物圏環境科学科、食農生命科学科、応用生命化学科（仮称）の3学科体制に移行することを検討しています（共同獣医学科はそのまま）。企業から見た「新学科に対する見方」を知るため、アンケートを実施させていただくものです。こういった人材が社会から求められているかを把握し、新しい学科構成での教育カリキュラムを充実させるための重要な資料とさせていただきたいと考えています。なお、このアンケートで得られた回答内容は、改組の検討資料としてのみ利用し、個人が特定されることはありません。アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

【アンケートのご提出方法】

会場出口のアンケート回収箱にご投函ください

なお、回答しない場合も同様に投函くださいますようお願い申し上げます。

【貴社について】 以下、1番と2番の設問に対するご回答は、企業様、団体様の分類のために利用します

1. 貴社の業種を教えてください。（該当するものに☑。複数回答可。）

- ☐ 農林水産 ☐ 鉱業 ☐ 建設 ☐ 電気・ガス・エネルギー ☐ 情報通信 ☐ 運輸・郵便 ☐ 卸売・小売
☐ 金融・保険 ☐ 学術研究・専門技術サービス ☐ 宿泊 ☐ 飲食サービス ☐ 生活関連サービス・娯楽
☐ 教育・学習支援 ☐ 医療・福祉 ☐ 複合サービス業 ☐ 製造業（分野を記入）
☐ その他（ ）

2. 貴社の規模について教えてください。（該当するものを一つ選択して☑。）

- ☐ 50人未満 ☐ 50人－99人 ☐ 100人－499人 ☐ 500人－999人 ☐ 1000人以上

【生物圏環境学科】 以下、3番、4番、5番は生物圏環境学科に対する設問です

3. 生物圏環境学科では、以下に示す特徴を活かした教育を行う予定です。これらの項目にどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、該当するものを一つ選択して☑。）

● フィールド重視の教育プログラム

中部圏の山岳地域から平野にいたる多様な地理的環境と生物環境を活用し、フィールドに直接関わる中で主体的かつ実践的な学びの機会を提供する教育プログラムを提供します。

- ☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

● 実習重視の教育プログラム

豊富な実習型カリキュラムを提供し、併せて環境問題解決に不可欠な大規模データの解析やモデリングを通じた総合化・一般化の力も養います。

- ☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

● 課題発見と問題解決能力を養う教育プログラム

現場における課題発見や問題設定能力、本学科が提供する多様な学問分野間をつなぎ課題解決までの道筋を見つける力、そして現場での実践力を養います。

- ☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

4. 生物圏環境学科では、以下に示す能力を身につけた学生を輩出する予定です。これらの能力にどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、該当するものを一つ選択して☑。）

● 水、土、動植物、生態系に関する幅広い知識、技術、研究力を兼ね備えた人材

生態系サービスに根差した農林基盤の整備と維持・管理のために、水・土を扱う一連の技術体系に関する専門知識・技術を持ち、地域の動植物と生態系について深く理解する。

- ☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

● 生態系サービスの保全を支える専門技術を持った人材

豊かな生物多様性に支えられた生態系サービスの保全のために、農村基盤と林業に関する施策立案、設計基準策定、制度設計、および野生生物保全、野生鳥獣保護・管理等の公的サービスを支える技術力を持つ。

- ☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

● 生態系サービスの利活用と社会実装に資する専門技術を持った人材

生態系サービスの利活用技術と社会実装に関する幅広い知識、技術、研究力を持つ。

- ☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

5. 生物圏環境学科の卒業生の採用について、どのように考えますか？（該当するものを一つ選択して☑。）

- ☐ 積極的に採用したい ☐ 採用したい ☐ 採用を検討する ☐ 採用は考えない

【食農生命科学科】 以下、6 番、7 番、8 番は食農生命科学科に対する設問です

6. 食農生命科学科では、以下に示す特徴を活かした教育を行う予定です。これらの項目にどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、該当するものを一つ選択して☑.)
- **植物、動物、食を併せ学ぶ教育プログラム**
植物、動物、および食に関する基礎科学、そしてこれらを応用した農業科学と食科学を共通の基盤とし、動植物の生命現象、動植物の生産技術および食品機能に対する理解を深めるための講義・実験・実習を行います。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
 - **食料システムの創出に役立つ教育プログラム**
「食料」を農地での生産から消費、そして人体における機能まで連続的かつ包括的に理解することで、人と地球の健康に資する持続可能な「食料システム」の創出に活かすことのできる専門知識と技術および実践力を専門科目において体系的に習得します。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
7. 食農生命科学科では、以下に示す能力を身につけた学生を輩出する予定です。これらの能力にどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、該当するものを一つ選択して☑.)
- **「食料システム」の諸課題に対応できる能力を持った人材**
植物生命科学、動物生命科学、食科学を基盤学問として、農畜産物の生産から加工流通、さらには機能性に至る「食料システム」の諸課題に俯瞰的に対応できる。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
 - **「食と農」に関する幅広い知識と研究力を併せ持った人材**
脱炭素社会を目指した持続的な農業生産技術の確立、食品の栄養・機能性の追求、フードロス削減などの課題解決に貢献できる「食と農」に関する幅広い知識と研究力を併せ持つ。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
 - **食品産業と農畜産業が連携・融合に必須の人材**
人々の健康維持や寿命延伸の礎となる食料を持続可能な形で生産・供給するためには、食品産業と農畜産業が連携・融合して課題解決に取り組んでいくことができる。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
8. 食農生命科学科の卒業生の採用について、どのように考えますか？(該当するものを一つ選択して☑.)
- ☐ 積極的に採用したい ☐ 採用したい ☐ 採用を検討する ☐ 採用は考えない

【応用生命化学科】 以下、9 番、10 番、11 番は応用生命化学科に対する設問です

9. 応用生命化学科では、以下に示す特徴を活かした教育を行う予定です。これらの項目にどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、該当するものを一つ選択して☑.)
- **生命科学の理解のための基盤的教育プログラム**
生命の基本原理の解明および生物が持つ多彩な生物機能および生命現象の理解に資する化学、生物学、物理学、生命情報科学を基盤とする基礎科目を学びます。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
 - **生命科学の応用を学ぶ教育プログラム**
生体分子から生物個体までを対象とする応用化学・応用生物学および高度な化学技術・バイオテクノロジーを学びます。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
 - **“モノづくり”を支える教育プログラム**
高度な化学技術・バイオテクノロジーを駆使したすべての知識・技術を基にして、社会で通用する科学的手法による課題解決能力を身につけます。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない
10. 応用生命化学科では、以下に示す能力を身につけた学生を輩出する予定です。これらの能力にどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、該当するものを一つ選択して☑.)
- **世界最先端のバイオエコノミー社会の実現に資する人材**
ウェルビーイング、脱炭素社会、持続可能な循環型社会の実現に必要な生命科学を生体分子から生物個体スケールで理解し応用展開できる幅広い知識と研究力を併せ持つ人材。
☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

● **モノづくりを実現できる人材**

実社会で通用する高度な化学技術・バイオテクノロジーを習得した上で、「創薬」「再生産可能な生物資源の利活用」「生物情報に基づく物質生産」に取り組んでいくことができる。

☐ とても魅力を感じる ☐ ある程度魅力を感じ ☐ どちらでもない ☐ あまり魅力を感じない ☐ まったく魅力を感じない

11. 応用生命化学科の卒業生の採用について、どのように考えますか？（該当するものを一つ選択して☑。）

☐ 積極的に採用したい ☐ 採用したい ☐ 採用を検討する ☐ 採用は考えない

【3 学科について】 以下、12 番から 16 番は 3 学科を合わせた設問です

12. 他の国立大学の農学系学部にはない魅力を感じる学科がありましたか？もしあれば、具体的にどの学科に魅力を感じたか教えてください。（該当するものに☑。複数回答可。）

☐ 生物圏環境学科 ☐ 食農生命科学科 ☐ 応用生命化学科

13. 今後 20 年間、最も必要とされると予想されるのはどの学科だと考えられますか？（該当するものに☑。複数回答可。）

☐ 生物圏環境学科 ☐ 食農生命科学科 ☐ 応用生命化学科

14. 岐阜大学応用生物科学部には、ジェネラリスト（農学分野に関連する幅広い基礎的な知識とスキルを有する人材）とスペシャリスト（農学分野の特定の領域に特化した知識とスキルを有する人材）のどちらのタイプの人材輩出を期待しますか？（該当するものを一つ選択して☑。）

☐ ジェネラリスト ☐ スペシャリスト ☐ その他

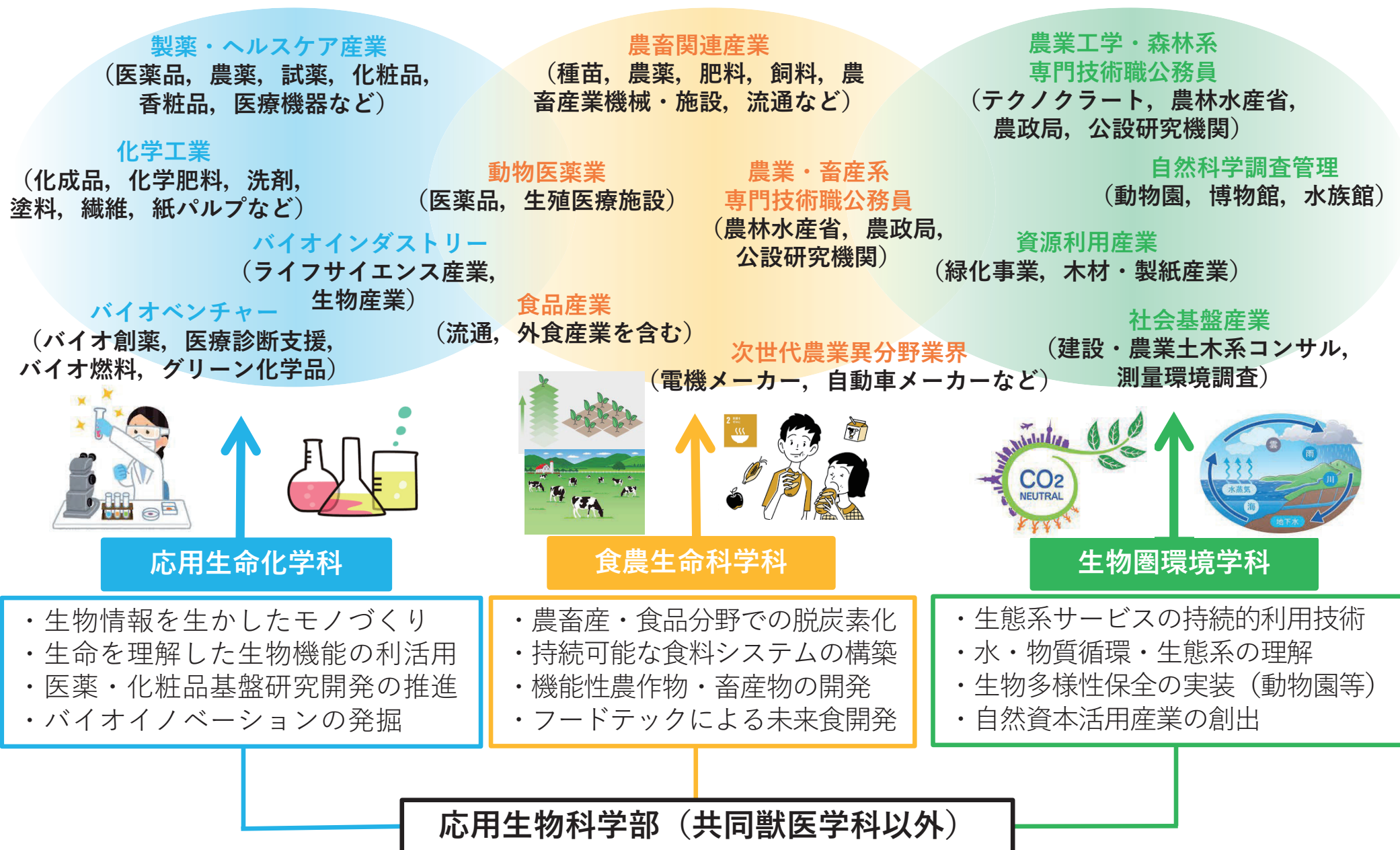
15. それぞれの学科で社会人・企業向けの公開講座、研修プログラムを実施した場合、参加を考えますか？（該当するものを一つ選択して☑。）

☐ 積極的に参加したい ☐ 参加したい ☐ 参加を検討する ☐ 参加は考えない

16. 貴社にとって、新学科に期待することがありましたらお聞かせください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

社会のニーズに対応する人材輩出



次世代社会ニーズへ対応する学部再編

岐阜大学応用生物科学部は、それまでに培ってきた農学に加えて食品、医薬品、環境関連産業などの生物産業で活躍できる人材を育成する学部として2004年に食品生命科学課程、生産環境科学課程及び獣医学課程の教育組織を設置した。その後、実質的な教育内容の提供や全国的な獣医学の改革等の変遷を経て、現在の応用生命科学課程（2コース）、生産環境科学課程（3コース）、共同獣医学科の2課程5コース1学科体制を築いている。本学部では生物・生命科学の成果を活用し、人類の持続的生存と生活環境の向上に貢献する理念の下、安心・安全な食の安定供給、環境と調和した食料生産、環境の修復と保全、高機能性食品の開発と健康の増進、公衆衛生の向上という5つの目標を理念に掲げて教育研究を実施している。しかし、高等教育の発展と少子化の進行に伴い、社会や地域のニーズ及び技術革新は大きく変化している。これらの次世代社会ニーズに応えるため、生命・食・環境をもとに専門性を再構築・組織化し、課題解決に必要な専門性の涵養に加え、課題解決型教育を強化することにより実践力のある人材を輩出するため、これまでの2課程を生命・食・環境を柱とする3学科（応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科）に再編し、共同獣医学科を加えて4学科体制とする。

再編した応用生物科学部では、低学年から積み上げ型専門教育が可能な新たな教育プログラムを実践し、学際的・総合的視点に立った理論的・専門的かつ実践的な研究と教育を行うことによって、次世代社会ニーズの潮流、学術研究の著しい進展、そして社会・経済の変化に対応できる、柔軟で高度の総合的な判断力を備えた、国際的にも通用する高度専門職業人材の育成を目的とする。

組織再編の必要性

応用生物科学部は、農学分野の発展を掲げ、理学や工学の素養も取り入れた教育・研究を実践し、高度専門職業人材を輩出するために20年前に設立された。しかし、高等教育の発展と少子化の進行に伴い、社会や地域のニーズ及び技術革新は20年前とは大きく変化している。その変化に課題解決型教育をベースにした専門性の高い教育で対応できる学部の組織再編が必要である。環境・食・生命はどれ一つ欠けても目標を達成することはできず、それらが密接につながって有機的に働くことで人類の生存と幸福を達成できるものであり、これらの理念を基盤とする教育研究を応用生物科学部で展開し、脱炭素化社会への対応、スマート農林業の実践、フューチャーグリーンおよびSDGsへの対応、みどりの食料システム戦略への参画等によって、Next Society5.0の実現に挑戦する。このように近い将来到来する諸問題に正面から立ち向かい、地域性を生かし、国際貢献でき、次世代社会のニーズへ対応する新たな視点での専門教育の必要性から4学科体制の新たな教育研究組織の再編が必要である。

人類の生存や活動の基盤に必要な農学

健康で安全な生活に寄与する生命科学の推進

- 超高齢化・人口減少社会等に対応する持続可能な質の高い医療体制の構築
- 安全な医薬品開発による健康長寿社会の形成
- バイオ産業競争力、地域活力の向上
- レギュラトリーサイエンス(安全確保のための科学領域)の発展

安全・安心な食生活の実現

- 環境変化に対応した食品の安全性の確保
- 持続可能な食料システムの創出と未来食の開発
- フードチェーンの理解(Farm to Fork)
- 安定な動植物生産技術の確立
- 機能的食品開発による健康寿命社会への貢献

生命

人類生存の基盤

食

環境

持続可能な社会への挑戦

- 気候変動への対応と生物多様性の保全
- カーボンニュートラル等の環境負荷軽減による持続可能な開発目標に向けた対応
- 大気・水・土壌等の生活環境の保全(食料・水資源の確保含む)
- 環境を考慮した資源の有効利用、資源循環

多様で広範な現代的課題に即した「専門性の高い」組織を作ること
これからの社会ニーズにこたえられる人材輩出が必要となる

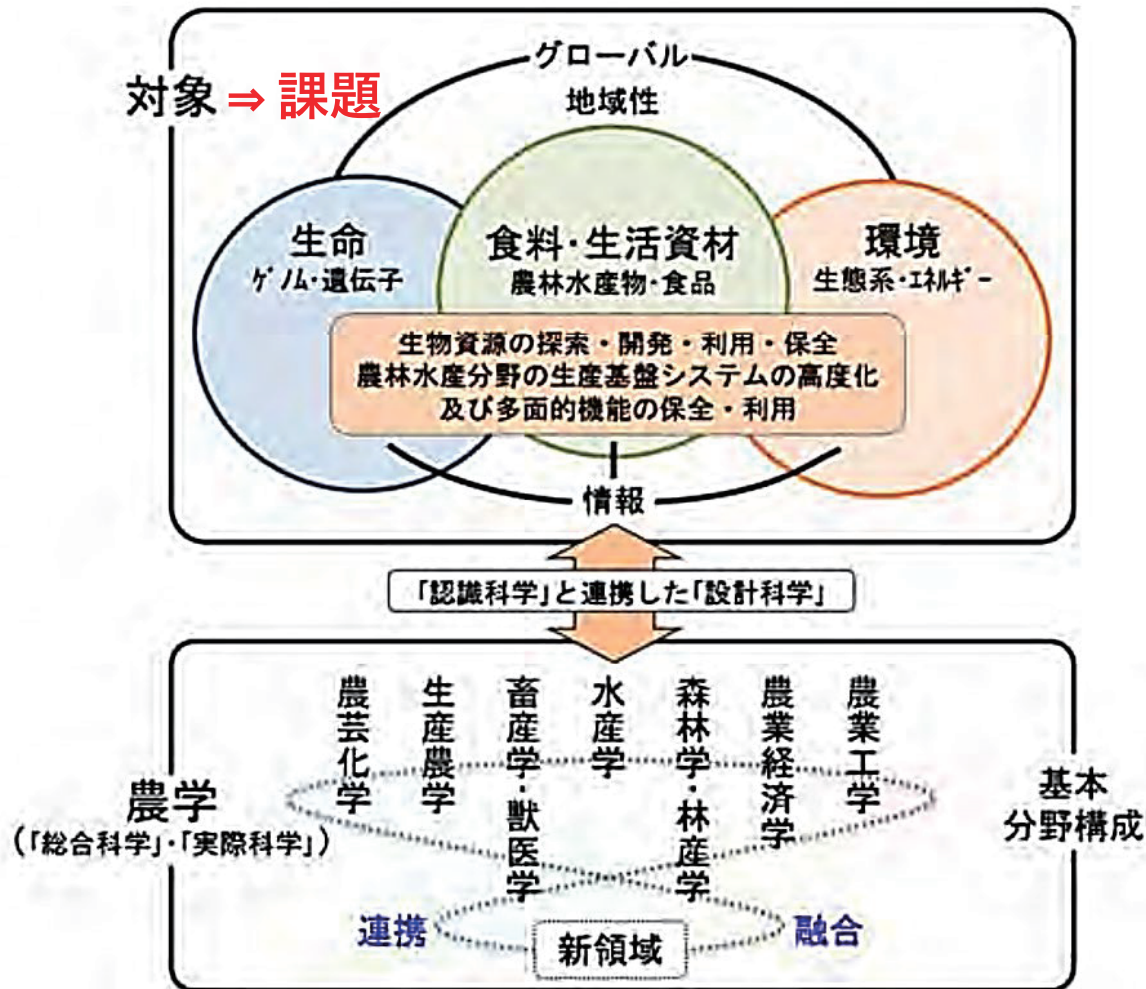


図1 農学の定義

農学の新たな対象、すなわち**農学**に求められている**課題**（**生命・食・環境**）をもとに**専門性を再構築・組織化し、課題解決に必要な専門性の涵養に加え、課題解決型教育を強化することにより、様々な課題に向き合い、解決に向け実践力のある人材を輩出する。**

日本学術会議 農学分野の参照基準検討分科会

大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準（農学分野）

（一部改変）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h151009.pdf>

農学の基本分野の再構築による新たな教育組織

改組概要

3 課題

生命

食

環境

農学の基本分野
(対象や手法の違い)

農芸化学

食品科学

植物生産学
植物生命科学

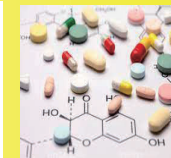
畜産学
動物保全学
動物生命科学

森林科学
農業土木学

異なる専門性を教育の柱とした、
独立する3学科組織への編成

● 応用生命化学科

化学×バイオ で新たな未来を創造



基本の学び

化学・生物学・
微生物学・動植物学・
ケミカルバイオロジー・
計算化学・分子データ
サイエンス

獲得能力

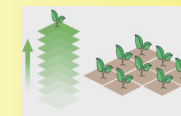
生命現象の理解
生物機能の利活用技術
生命化学の最新技術
産業界での実践化学

卒業後の進路

製薬ヘルスケア産業
化学工業
バイオ産業
医療機器

● 食農生命科学科

生産農学×食科学 で持続可能な
食料システムへ



基本の学び

食品科学・食品流通・
植物生産学・畜産学・
食化学・栄養学・
フィールド科学
食農データサイエンス

獲得能力

食料システムの理解
植物機能の利活用技術
動物科学の最新技術
産業界での実践技術

卒業後の進路

食品産業
農畜関連産業
動物医薬業
農水省等専門技術職員

● 生物圏環境学科

農業工学×生物多様性 で生態系サービス
を活用



基本の学び

水・土壌学・物理・
数学・生態学・環境と
エネルギー・環境
データサイエンス

獲得能力

生物圏環境の理解
生態系サービスの理解
環境関連産業の機能
野生動物の保全と管理

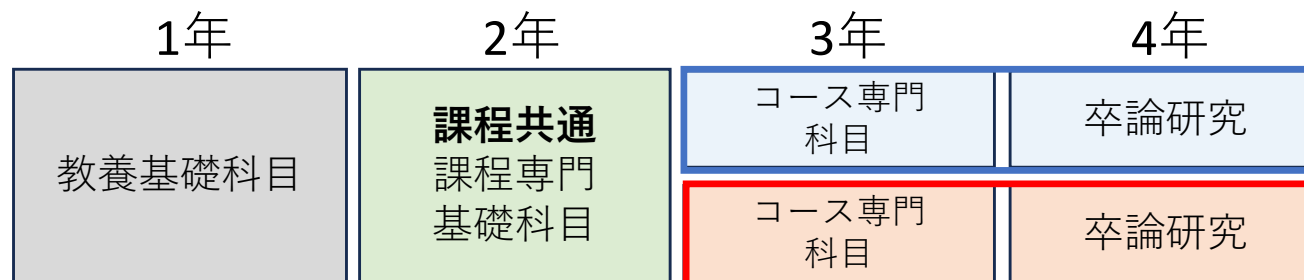
卒業後の進路

農業土木コンサル
緑化事業
動物園・博物館
農水省等専門技術職員

新たな視点での専門教育を実現するためのカリキュラム

- 従来の農学教育のスクラップビルド
- 低学年から積み上げ型専門的学科教育が必須

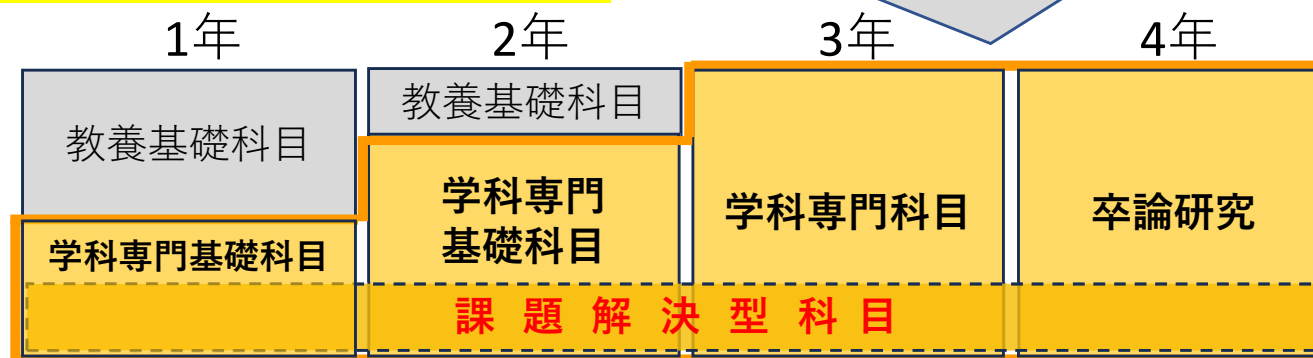
改組前の課程教育 ⇒ コース教育



【学生のメリット】

- 1年次からの積み上げ型専門教育の実施により早期卒業および大学院への早期進学の可能性が増える
- 課題解決型教育により、これからの新たな社会課題への対応力を身につけることができる

改組後の3学科の学科教育



1年次より専門科目への意識を高めるための専門基礎科目を履修し、2年次には学科専門基礎科目の学びを深め、3年次には「学生が自ら設定する到達目標に合わせたカリキュラム」を選択する学科専門科目により専門性を深め、卒業研究に取り組む。

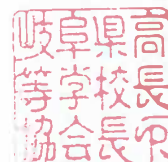
令和6年1月10日

東海国立大学機構 岐阜大学

学長 吉田 和弘 様

岐阜県高等学校長協会

会長 石田 達也



岐阜大学における人材育成に関する要望書

貴学におかれましては、平素より高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤となる優れた研究、地域に根ざした国際化の展開による地域活性化の中核拠点として貢献等を担っていただいておりますことに深く感謝申し上げます。

岐阜県内の各高等学校からは、毎年、貴学応用生物科学部に多くの生徒が進学しております。応用生物科学部は、生物科学・生命科学・生物環境科学の学理を究め、それらに関連した技術を開発し、その成果を生物産業や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全およびヒトと動物との共生に応用することで、より良い社会を実現することを理念とされております。その理念に基づく教育環境への期待から、生物や化学が好きで、生物科学、生命科学、環境科学に関心のある多くの生徒が卒業後の進学先としております。また、岐阜県内のいくつかの高等学校では、高大接続のための各種連携授業や探究活動への協力、大学入試に関連する意見交換、高等学校の指導要領や教育現場の現状の共有など、これまでも応用生物科学部と密に連携を取っており、そのことが応用生物科学部への進学を後押ししている要因でもあります。

さて、現在、全国的な人口減少や少子高齢化が進み、岐阜県においても平成12年をピークに人口が減少を続けている中、18歳人口も例外なく減少し続けています。また、地球環境問題が我々の身近な生活にも重くのしかかるようになり、生命、食料、環境をとりまく状況も変化し続けています。

今後は、そうした状況の変化に十分対応できる人材がこれまで以上に必要とされます。応用生物科学部における教育を深化し、一層実践的に進化することで、特に農畜産業を含む生物産業や食品産業界において、また動物を含めた地域環境の保全活動の分野において、課題解決能力を持ち、優れたリーダーシップを発揮できる人材を輩出いただきたく、貴学に下記のとおりの要望いたします。

記

生命、食料、環境の分野で専門的に応用生物科学を学び、現代的な課題を解決できる人材を育成する教育・研究組織への再編

令和5年12月13日

東海国立大学機構 岐阜大学

学長 吉田 和弘 殿

岐阜県農業高等学校長会

会長 大塚 浩昭

(岐阜県立加茂農林高等学校長)

岐阜大学における人材育成に関する要望書

貴学におかれましては、平素より高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤となる優れた研究、地域に根ざした国際化の展開による地域活性化の中核拠点として貢献等を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、岐阜県立の各農業高校から、毎年、貴学応用生物科学部に複数の生徒が進学しております。応用生物科学部は、生物科学・生命科学・生物環境科学の学理を究め、それらと関連した技術を開発し、その成果を生物産業や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全及びヒトと動物との共生に応用することで、より良い社会を実現することを理念されております。その理念に基づく教育環境への期待から、農業高校で学んだ学問分野を基に、さらに生物科学、生命科学、環境科学の知識を深めたいと考える生徒が進学先としております。また、高大接続のための各種連携授業や各種活動への御協力、連絡協議会を通じた応用生物科学部と農業高校双方の教育現場の現状の共有など、岐阜県下の農業高等学校とは密に連携を取っており、それが応用生物科学部への進学を後押ししている面もあります。

現在、全国的な人口減少や少子高齢化が進み、岐阜県においても平成12年をピークに人口が減少を続けている中、18歳人口も例外なく減少し続けていきます。また、地球環境問題が我々の身近な生活にも重くのしかかるようになり、農業や関連産業を取り巻く状況も変化し続けています。

そうした状況の変化にも十分対応できる人材が、今後ますます必要になってきます。応用生物科学部における教育を深化し、一層実践的にすることで、特に農業や関連産業で、課題解決能力をもち、優れたリーダーシップを発揮できる人材を輩出いただきたく、貴学に下記のとおりの要望いたします。

記

- 1 生命、食料、環境の分野で専門的に応用生物科学を学び、現在、そして将来にわたり生起する様々な課題を解決できる人材を育成する教育・研究組織への再編
- 2 大学入学者選抜（学校推薦型選抜Ⅰ）における農業系高校生枠の継続設置及び拡大

令和 6 年 1 月 2 3 日

国立大学法人東海国立大学機構
岐阜大学応用生物科学部 学部長 光永 徹 様

岐阜県農政部長
岐阜県商工労働部長

岐阜大学応用生物科学部の再編に関する意見について

貴大学は、県内唯一の国立大学として「岐阜県と国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学との連携に関する協定」を本県と締結し、現在も様々な分野で連携・協力しながら、地域社会のニーズに応えつつ、学術的な研究や人材の育成を図られています。

応用生物科学部の再編により、岐阜県ならではの課題や地域の特色を踏まえた研究を実施され、高い専門性を持ち、地域に根差して活躍できる人材の輩出に期待します。

令和5年12月13日

東海国立大学機構 岐阜大学
大学長 吉田 和弘 殿

岐阜県商工会議所連合会
会長 村瀬 幸雄



岐阜大学における人材育成に関する要望書

貴大学におかれましては高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育や教育基盤としての質の高い研究活動の実践などによって、平素より地域社会に多大なるご貢献を賜っておりますことに厚く感謝申し上げます。

岐阜県下の企業には、毎年貴学の卒業生が多数就職し、地域産業経済を支える人材として各所で重要な職責を果たしてきました。岐阜県では製造業が中心的な産業であるとともに古くから農林水産物の有力な産地であり、大消費地である名古屋が近いことから農林水産物を原料とした製造業も盛んです。こうした製造業では、専門性と問題解決能力が高い人材が即戦力として求められており、このような人材の涵養は地域経済の振興・発展においても不可欠です。

高度専門職業人の養成を意識した実践的な教育により、将来を見据えた力強い地域経済の振興・発展に貢献できる人材を輩出することを下記のとおり貴学に要望いたします。

記

1. 農林水産物の生産とそれを利用したものづくりの両方の分野に関する専門性と課題解決能力を有する人材を養成する教育課程の創設

以上